



醉月集  
三



四明州  
全平刀素

屋の今年此道極の東

ある標持新姑ある一と

るもの心家身をか一

己目持のり河東ふんを

いさよとて流るる水  
解る様より流るる水  
其の流るる水  
其の流るる水  
其の流るる水  
其の流るる水

いさよとて流るる水  
解る様より流るる水  
其の流るる水  
其の流るる水  
其の流るる水  
其の流るる水

曲名毎くおもしろい  
らよーしきききき

子

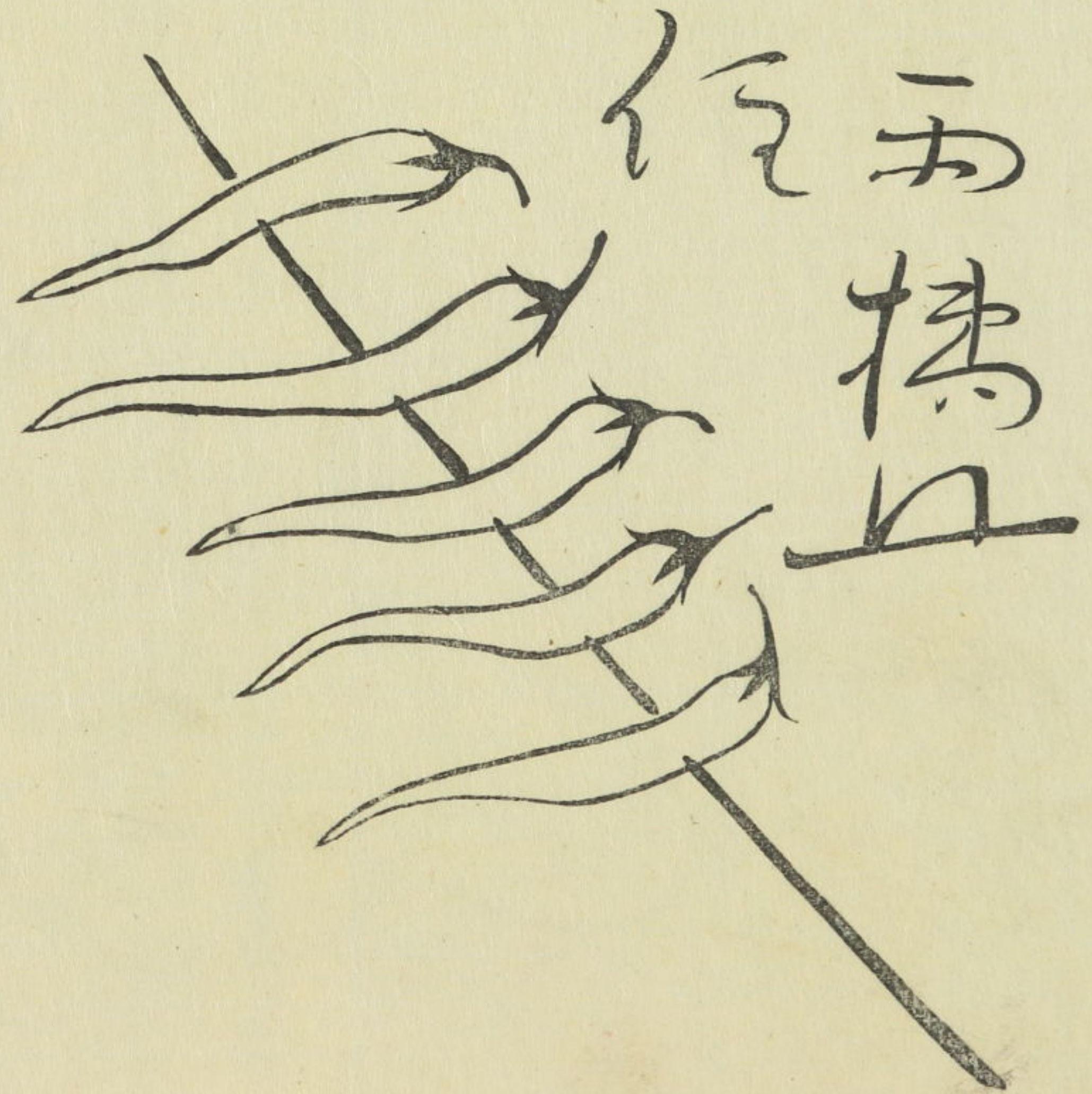
浪花さうり  
浪花さうり



肥  
乙  
煉風や  
庵の猫  
竹有



あさき  
うらと  
ええん  
か



あつたのま

あつたのま

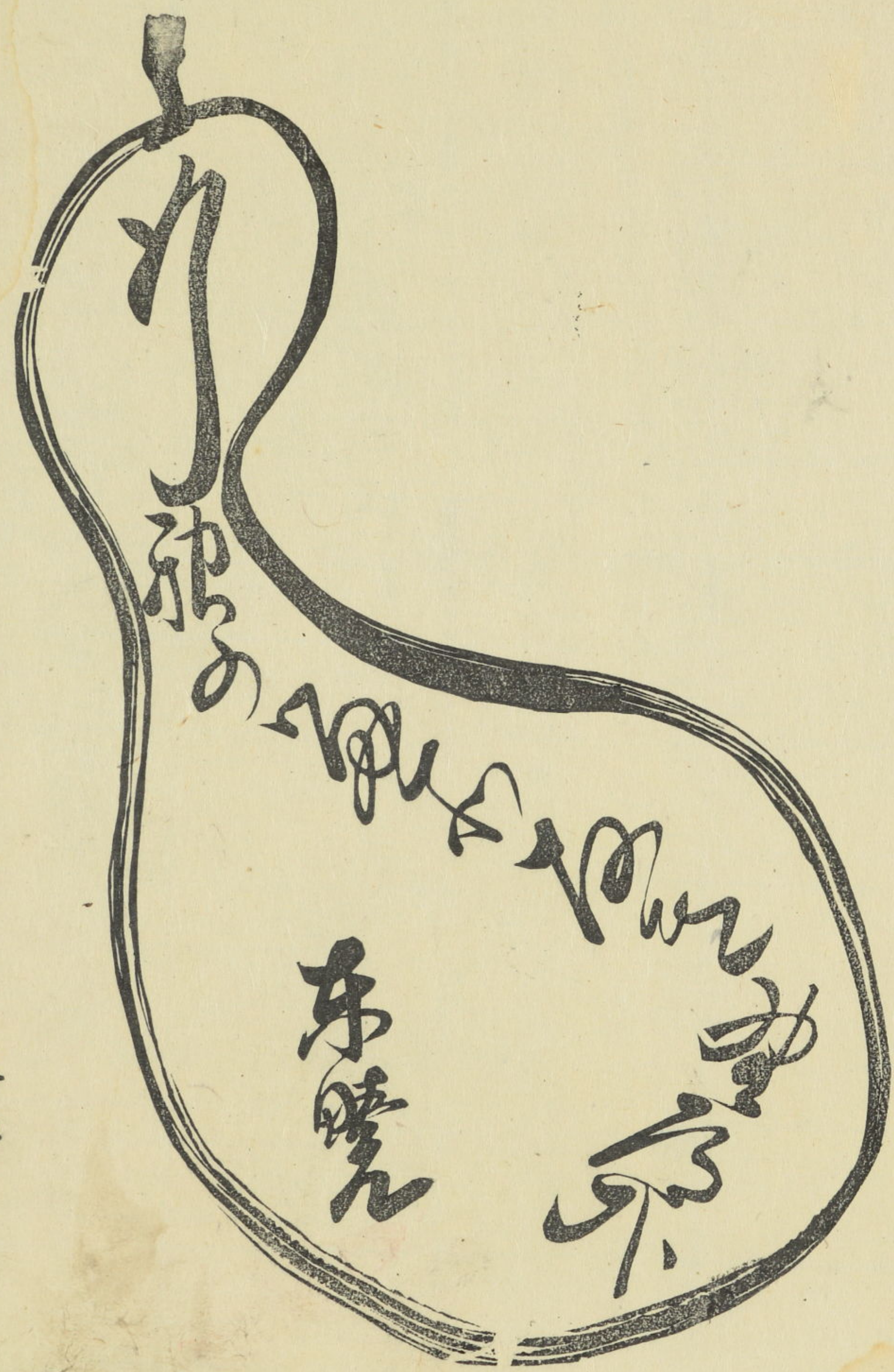
あつたのま

あつたのま

あつたのま

あつたのま





乃久連種衣置

野鳥



七夕波

うね

うね

月夜

うね

七夕波



三ノ

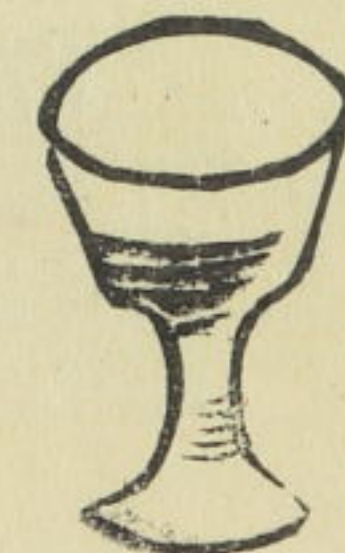
七夕波

坂本

うね



七夕波



三ノ

秋立と

大坂

石見

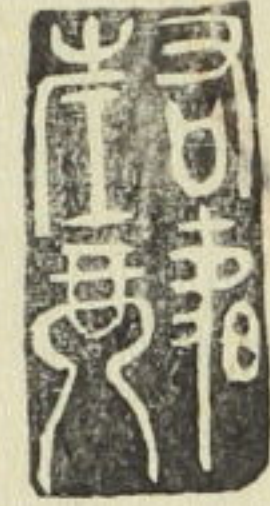


目おほく

アノ袖也

くらさめ

写



葉の毛

雨路の

らぬ

垣穂

一士





松  
系  
の

さ  
ら  
り

秋  
の  
香

翠  
堂



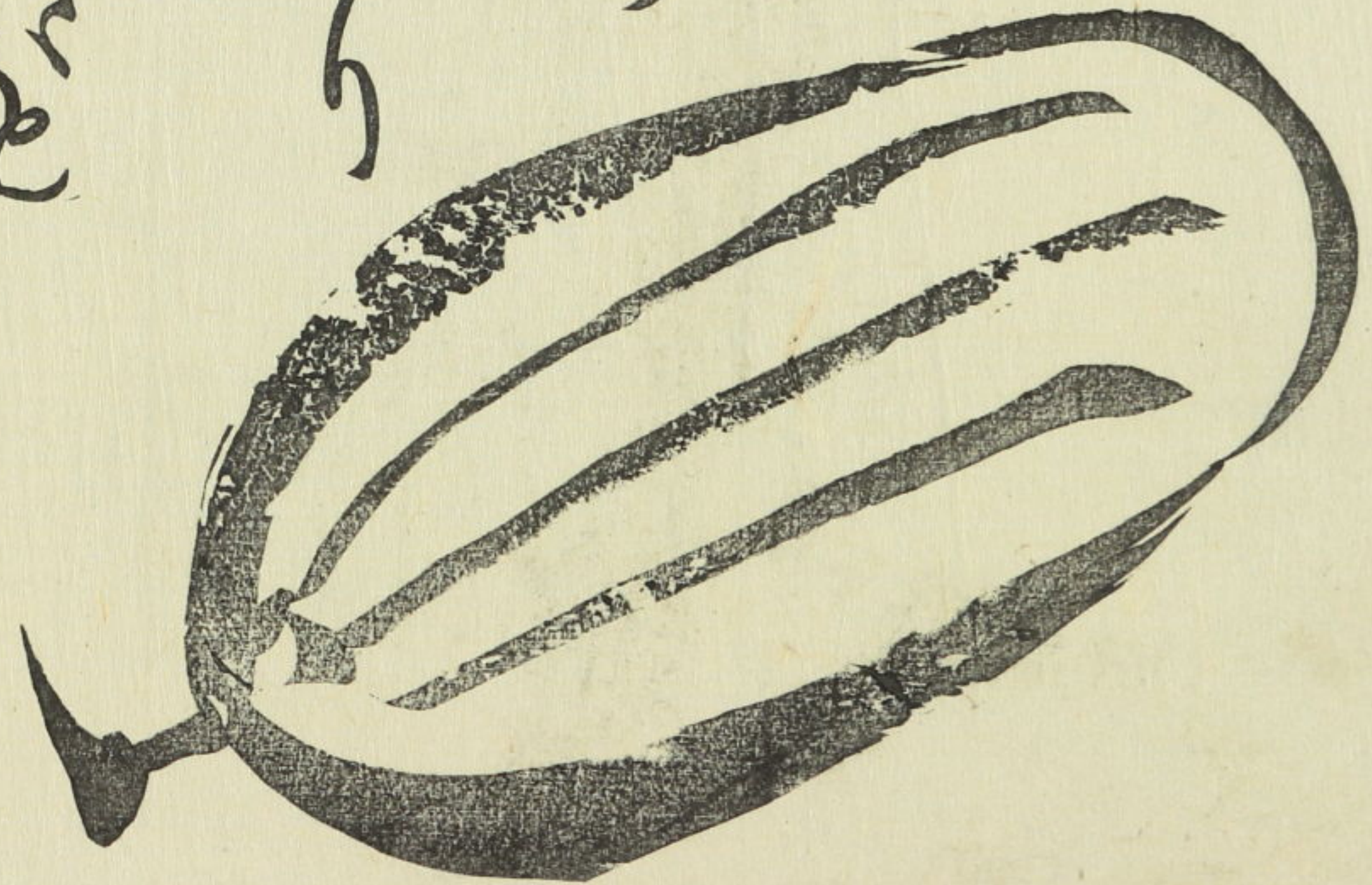
松  
此  
系  
の

何  
れ  
が  
さ  
る

か  
ら  
り

セ  
ワ  
フ  
ク  
ハ  
ラ

あ  
ま  
り



水鏡

長江

舟

舟

舟

舟



三六

舟の舟

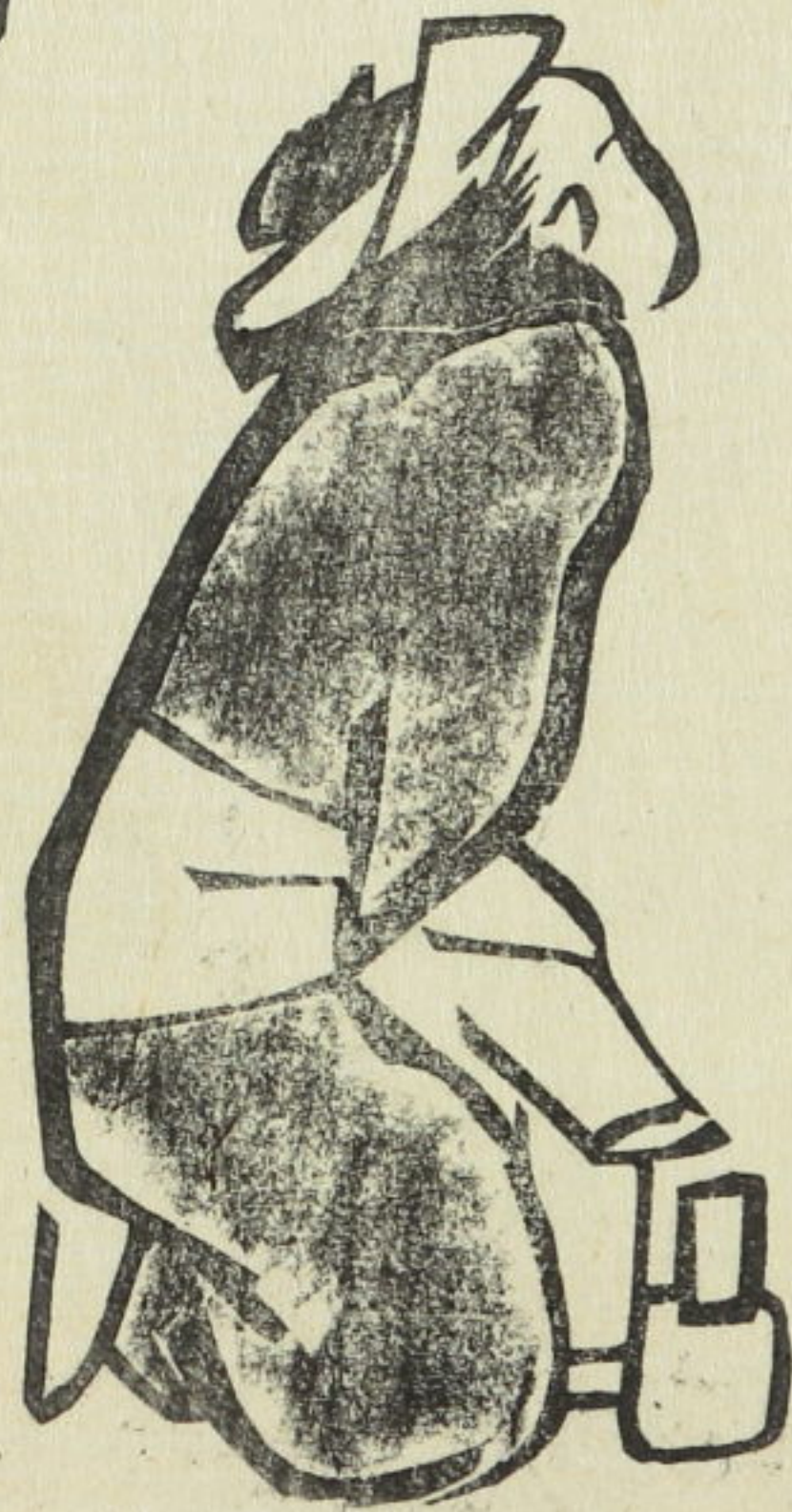
舟

舟

舟

舟

舟



三六

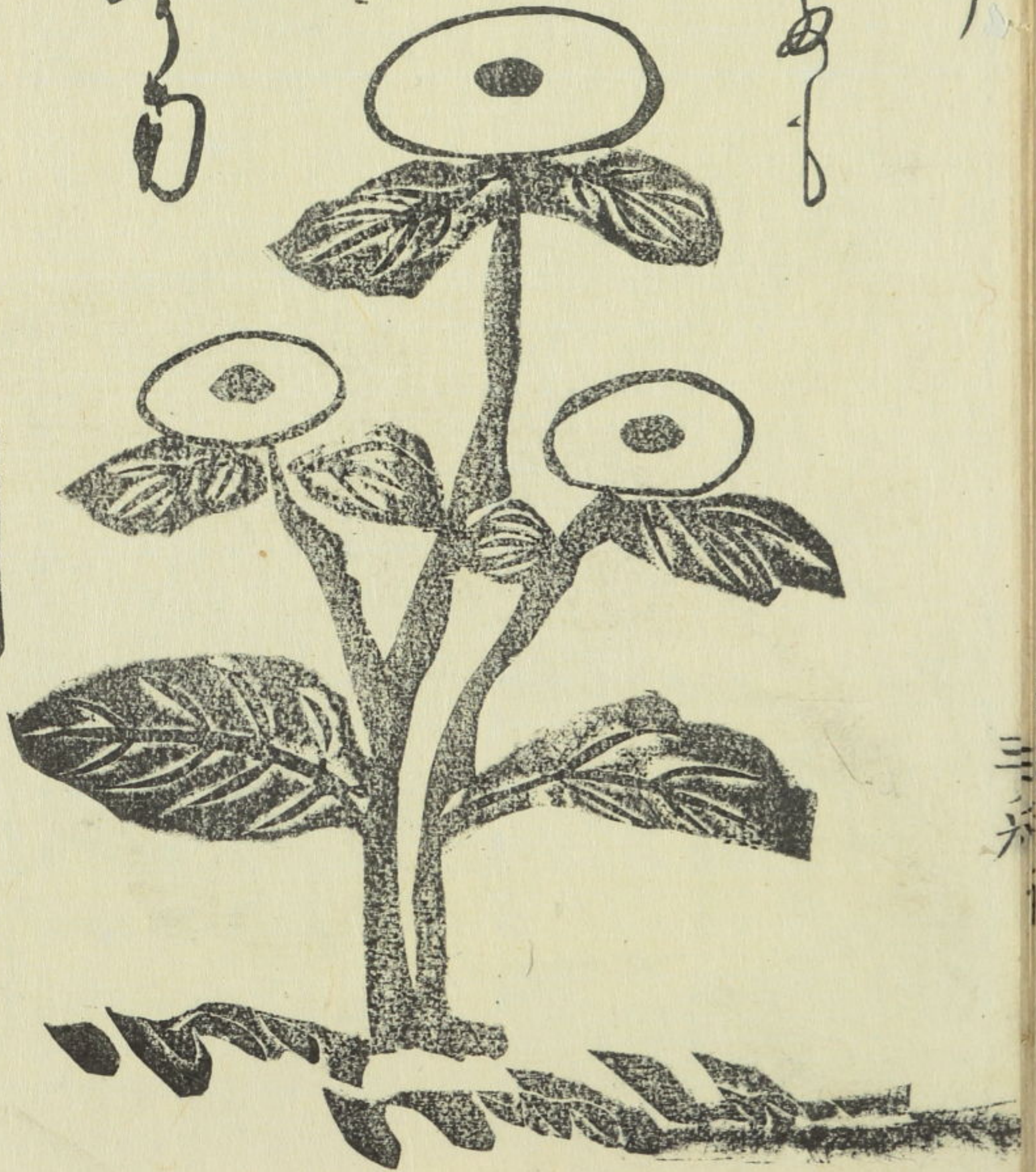
花のうしろ

花のうしろ

菊

白

菊



三六

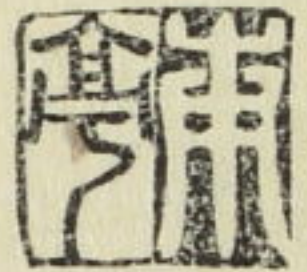
花のうしろ

花のうしろ

花のうしろ

花のうしろ

武陵



花

米  
子  
月

木  
あ  
の

世  
の

り  
柳  
福  
泉  
木  
鳩



ふ  
ら  
り

指  
り  
子

心  
を  
ら  
る

花  
の  
さ  
か

日  
都

考



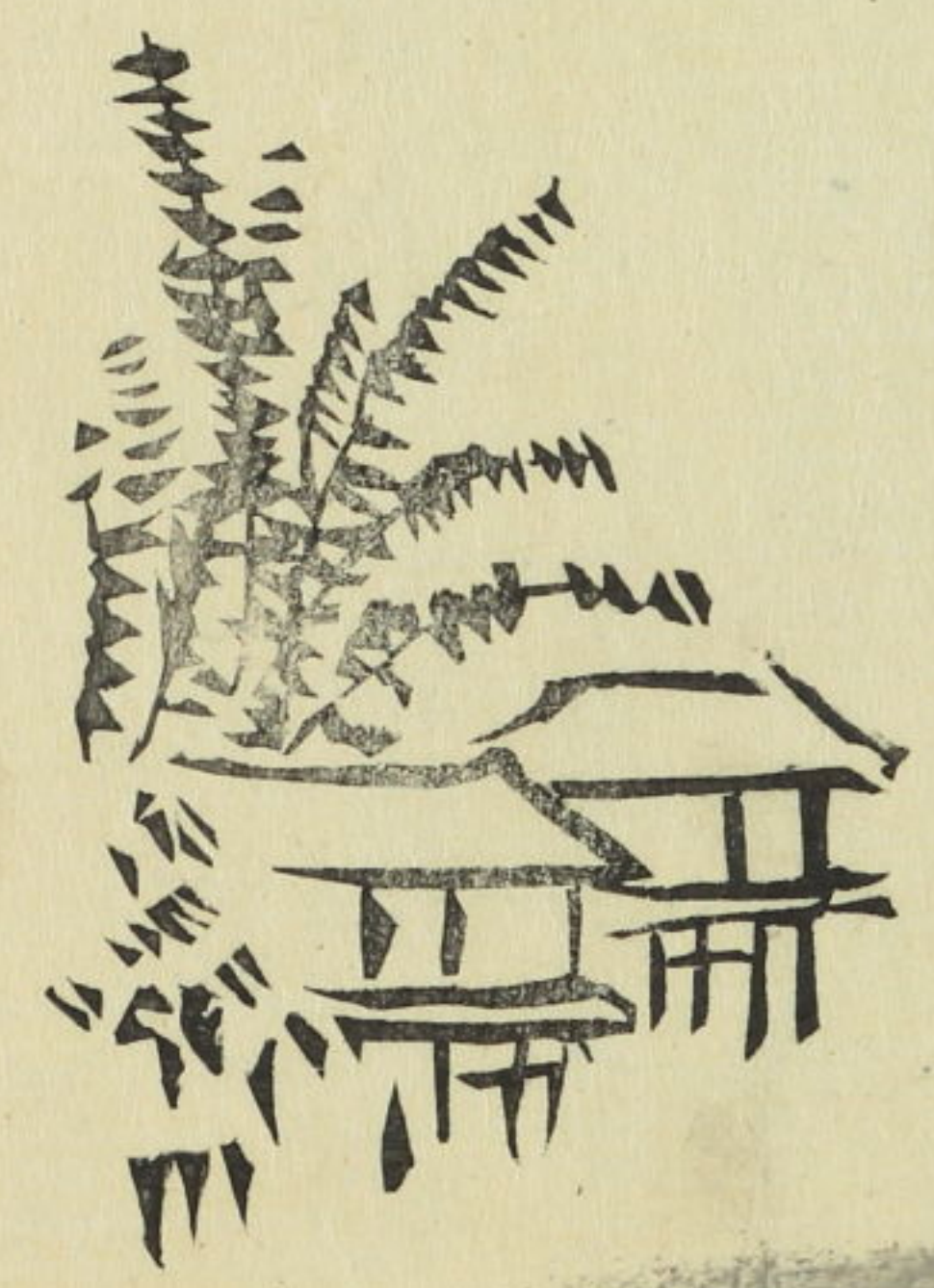
秋の夜乃

くさせハ

ちりし

舟の歌

東雅



賀子健

家福

物詞

知事と少佐

十二

巢花星譜



古刀庵  
梅亭

松の風

万葉唱ふ

〜あきや



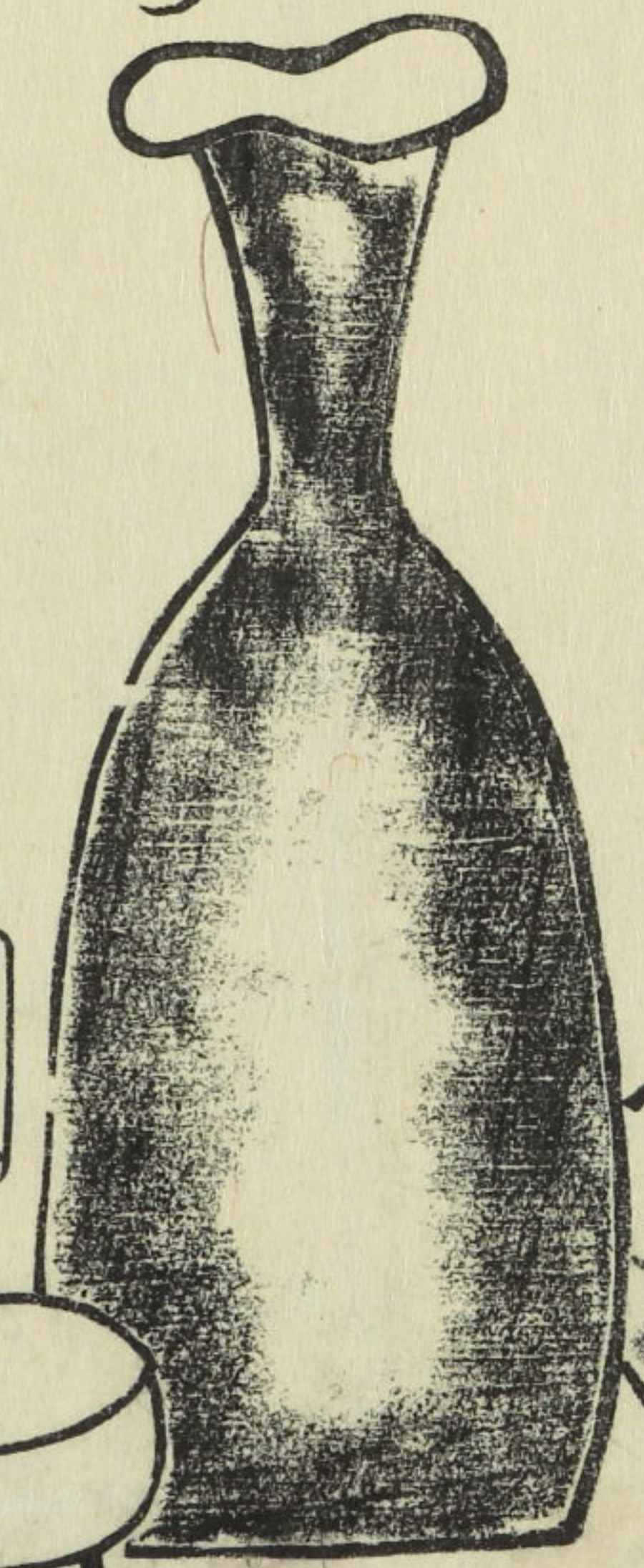
酒造

瓶の歌も

酒の味

ふれん

りり



佳笠

佳

三

秋白し  
 ひろろ  
 月お  
 みるひ  
 ま



三十三

し豊  
 るふ  
 心  
 若野の  
 州

佳舞  
 田  
 田



三十三

くらし

くらしとある

くらし

九交

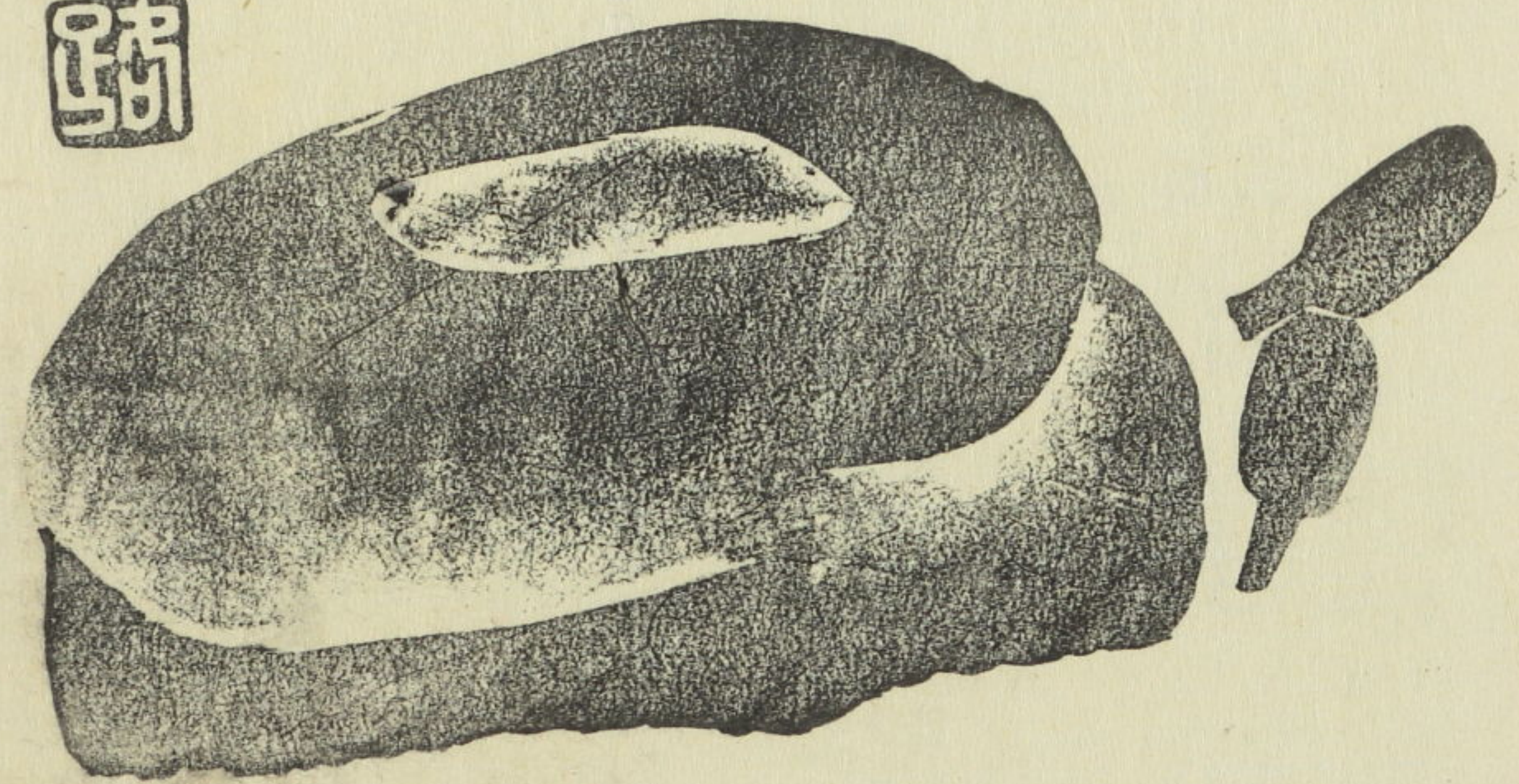


心

心も

心も

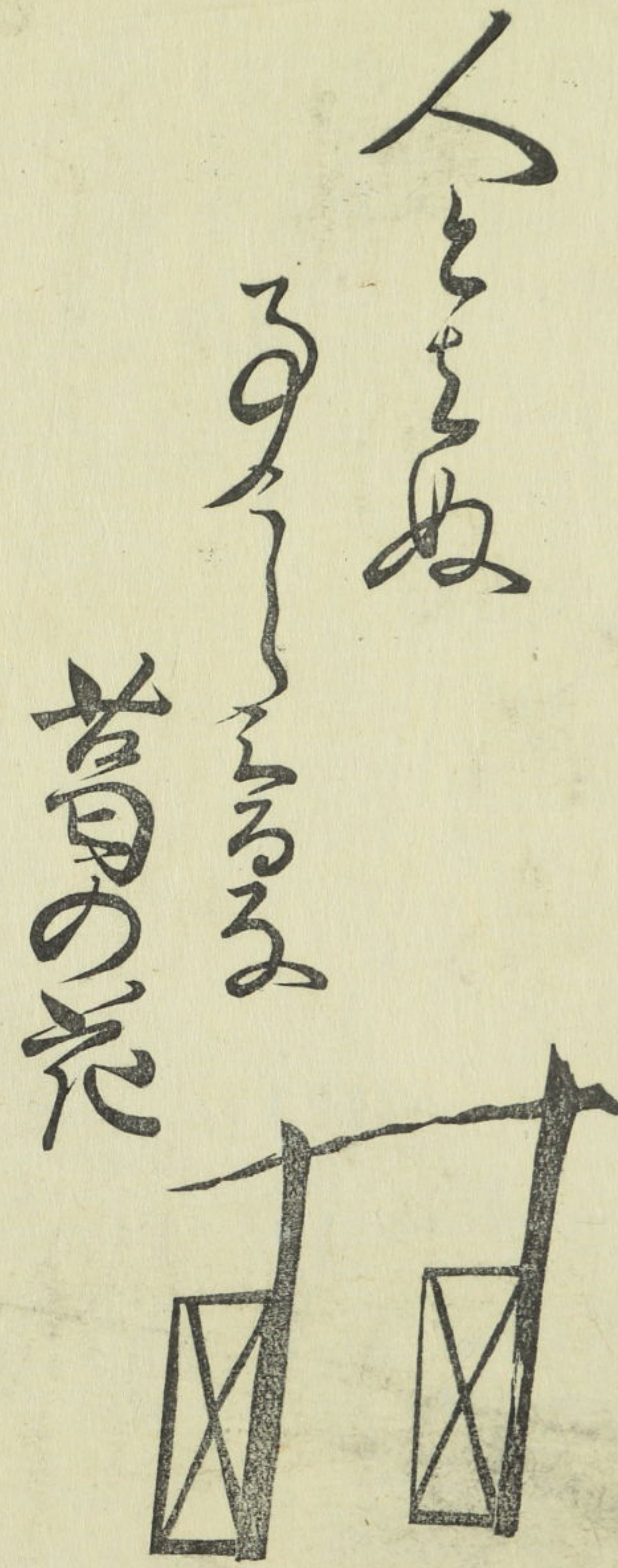
タレハ  
白路圖







二五



三十四

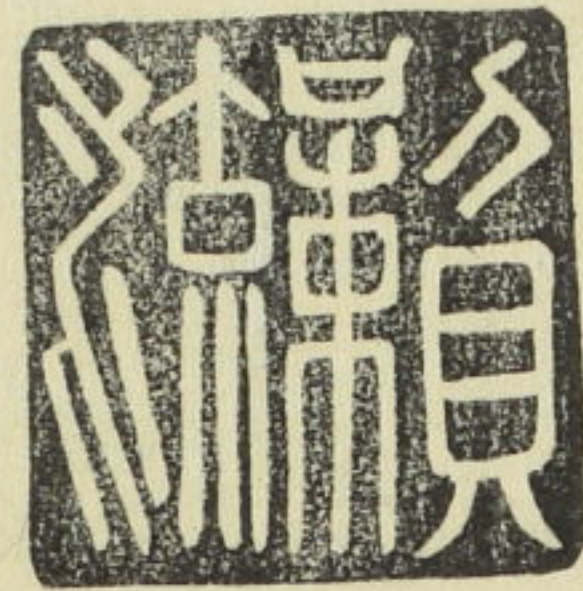
白車  
福

川邊の  
お豆焼しの



待宵の

大坂歌謡画



ちりね

あかたの

むの

鬼



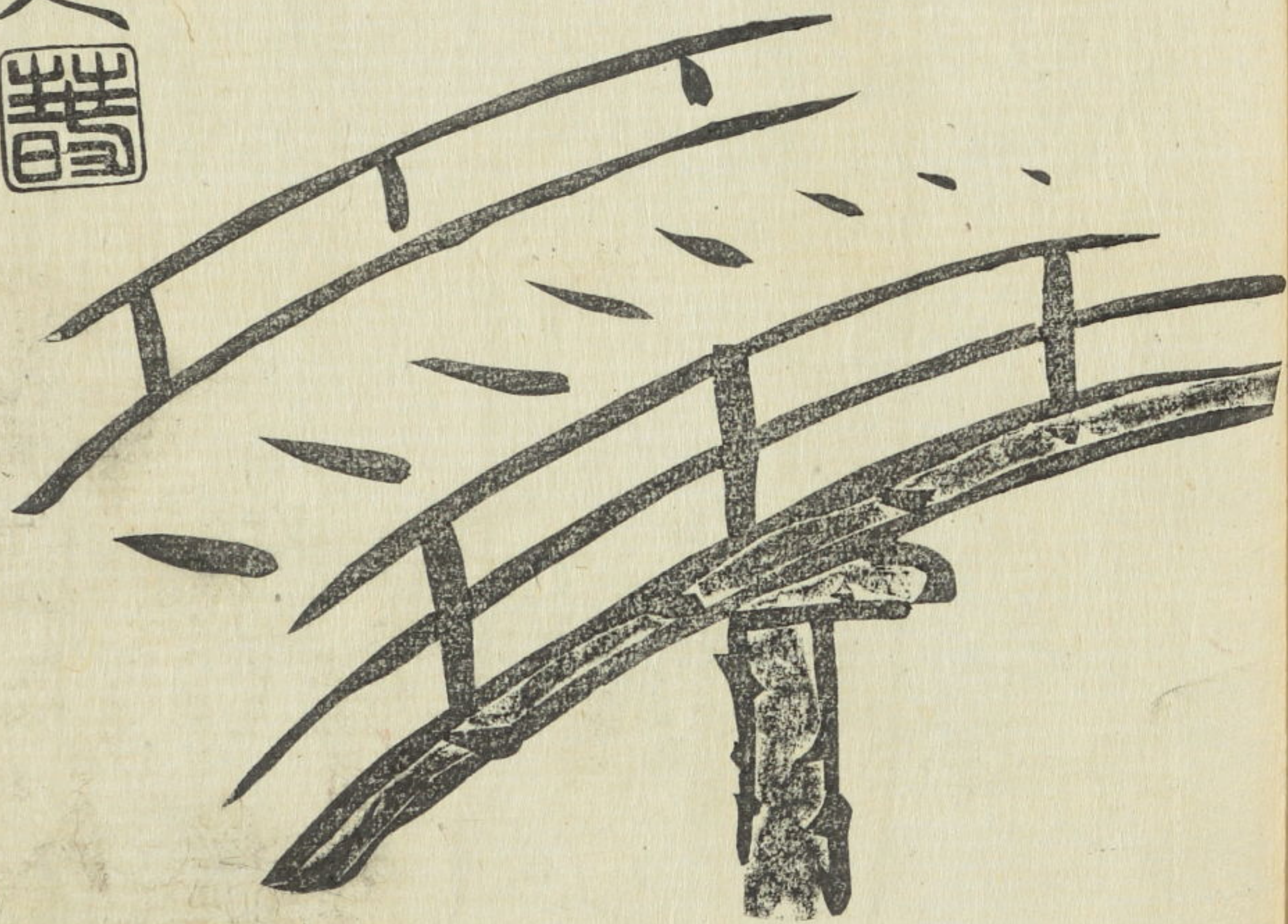
川

長河一丈

神とあそぶ

好む風

春人



名はく

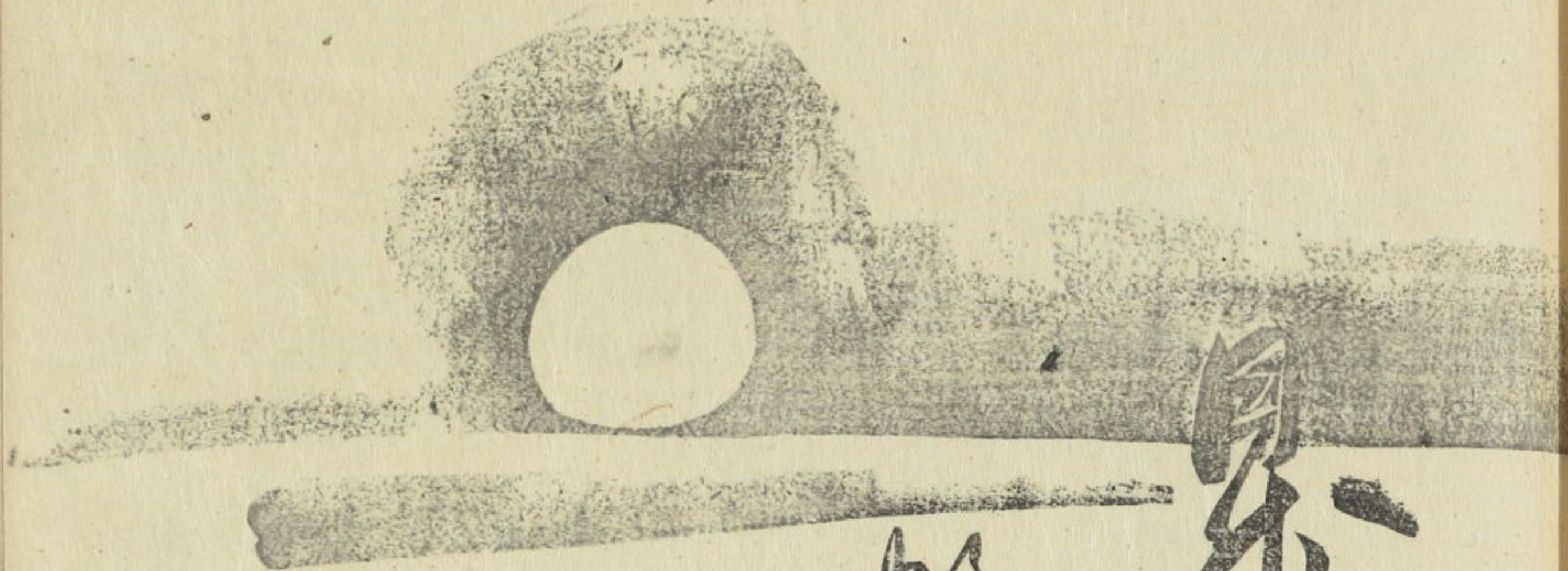
あそぶ

三月の松

五原



三葉



月夜

物

入  
時

山  
石



月夜

山  
石



月夜  
物

入  
時

山  
石



山  
石



Three vertical wavy lines in cursive calligraphy.

Two vertical wavy lines in cursive calligraphy.

Two square seals in seal script.

Vertical inscription in cursive calligraphy.

Small vertical inscription on the left edge of the page.



Vertical inscription in cursive calligraphy.

Vertical inscription in cursive calligraphy.

Vertical inscription in cursive calligraphy.

Vertical inscription in cursive calligraphy with a circular seal below it.

Square seal at the bottom of the page.

Small vertical inscription on the right edge of the page.

中の素

その遠心

海風

浪華

南山



州むも

常より

如新乃心

隆志





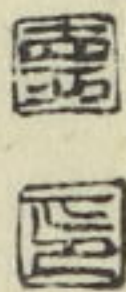
枯きまじ

日知の人の

尾のまじ

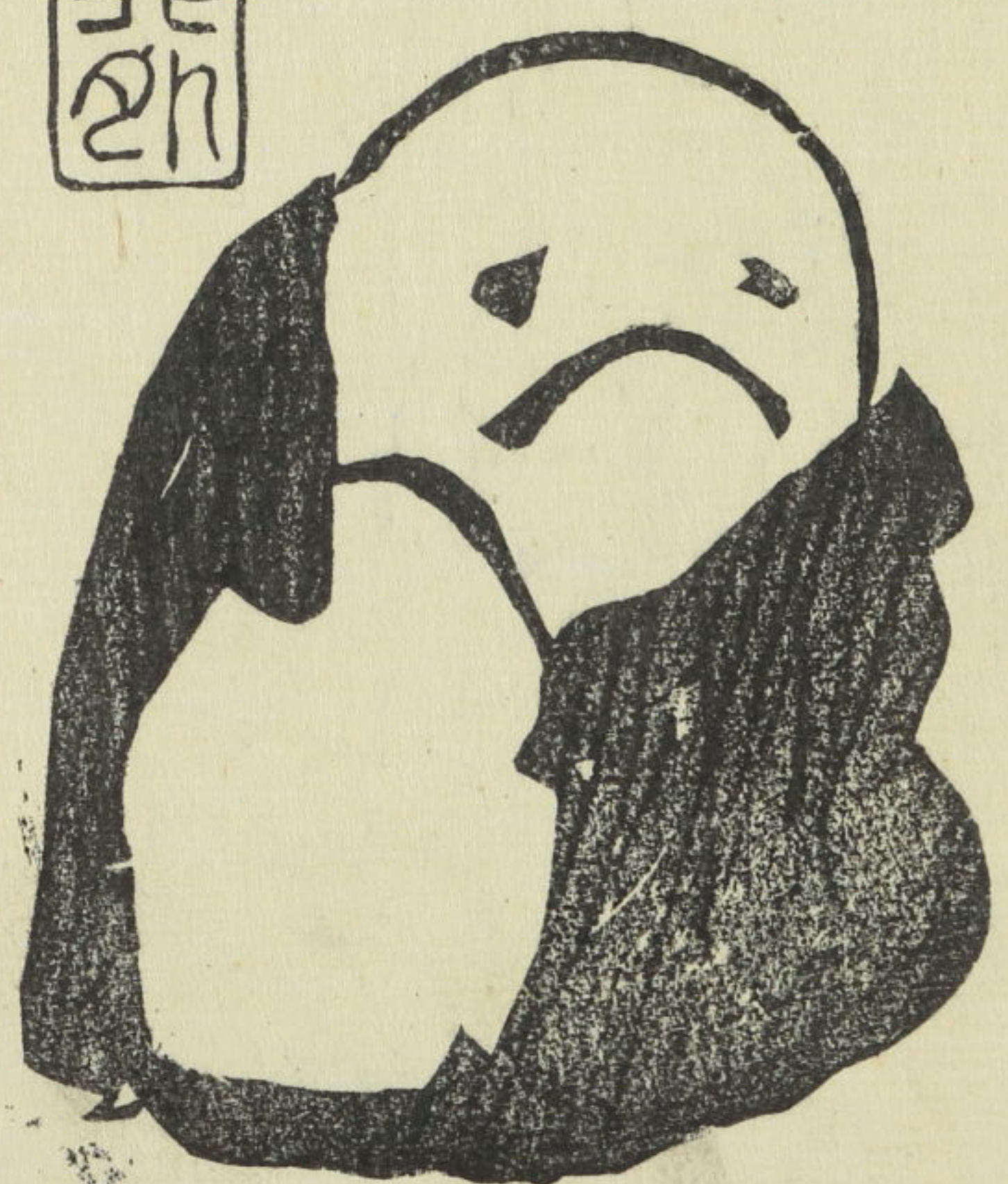
冷義

羅文



招心の人も  
心もまじりて

六外



余吾の胡

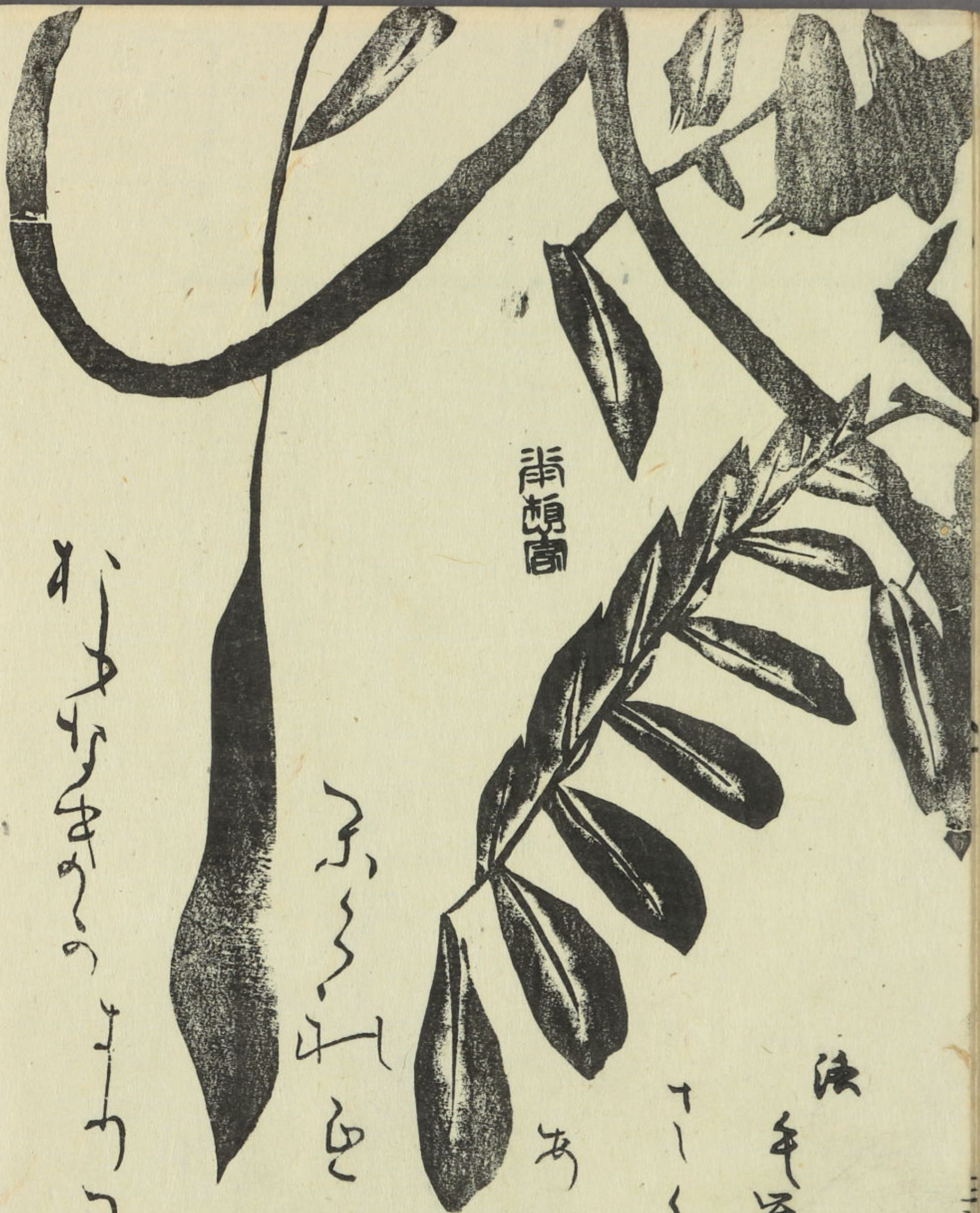
あまの

猶書の

あま

あま

池久



南嶺園

あまの

あまの

あまの

法  
年  
春  
園

あまの



長  
生  
法  
印



小  
その  
こころ

か  
ら

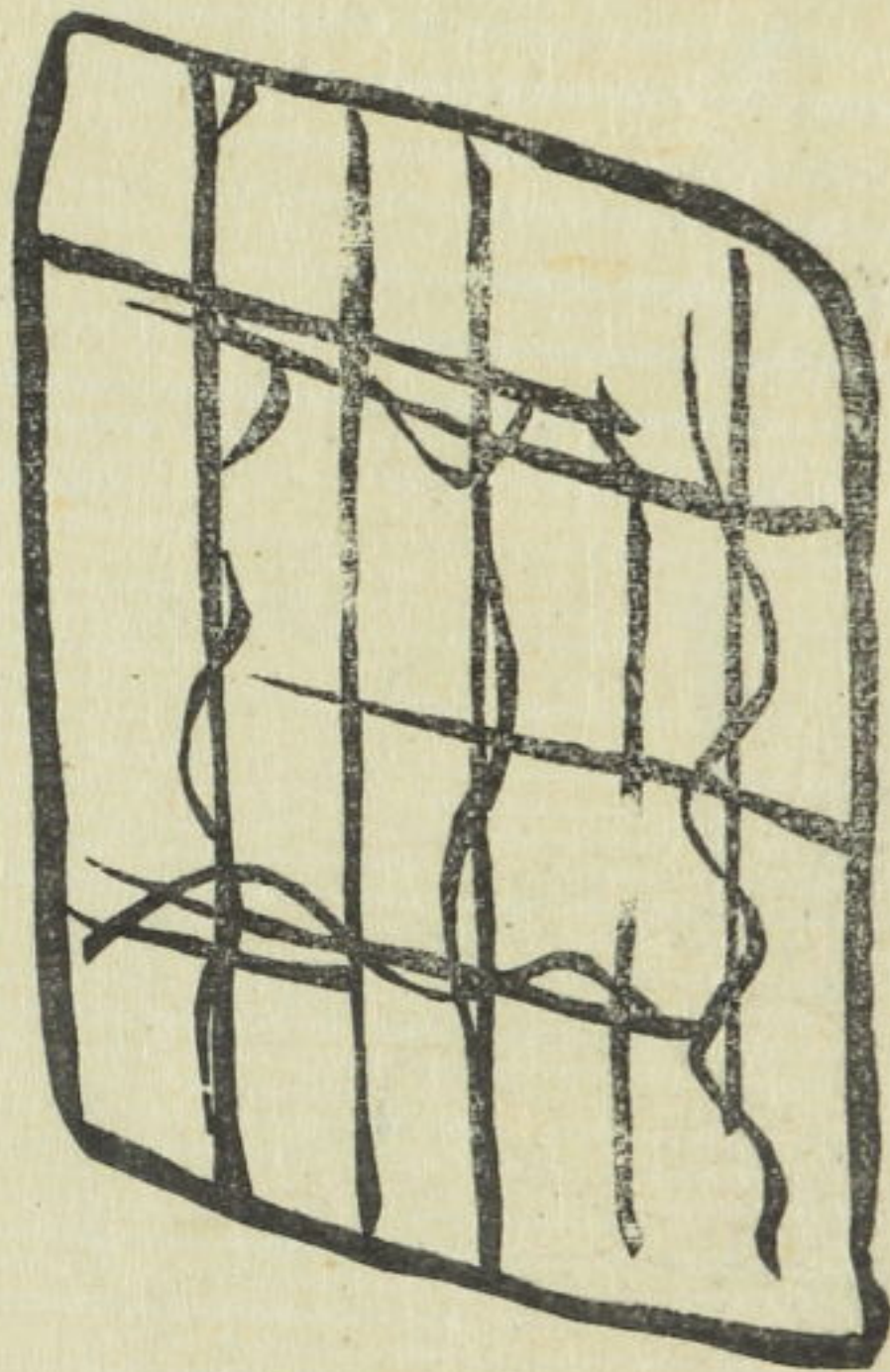
か  
ら

か  
ら

す  
か  
ら

未  
安  
松  
石  
初  
末

法  
印



松  
石

法  
印

法  
印

松  
石  
の  
松  
石  
松  
石  
松  
石



後、寺いしる、左京 岳器画併題

おのちの

おのち

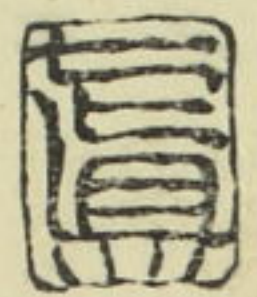
おのち

おのち

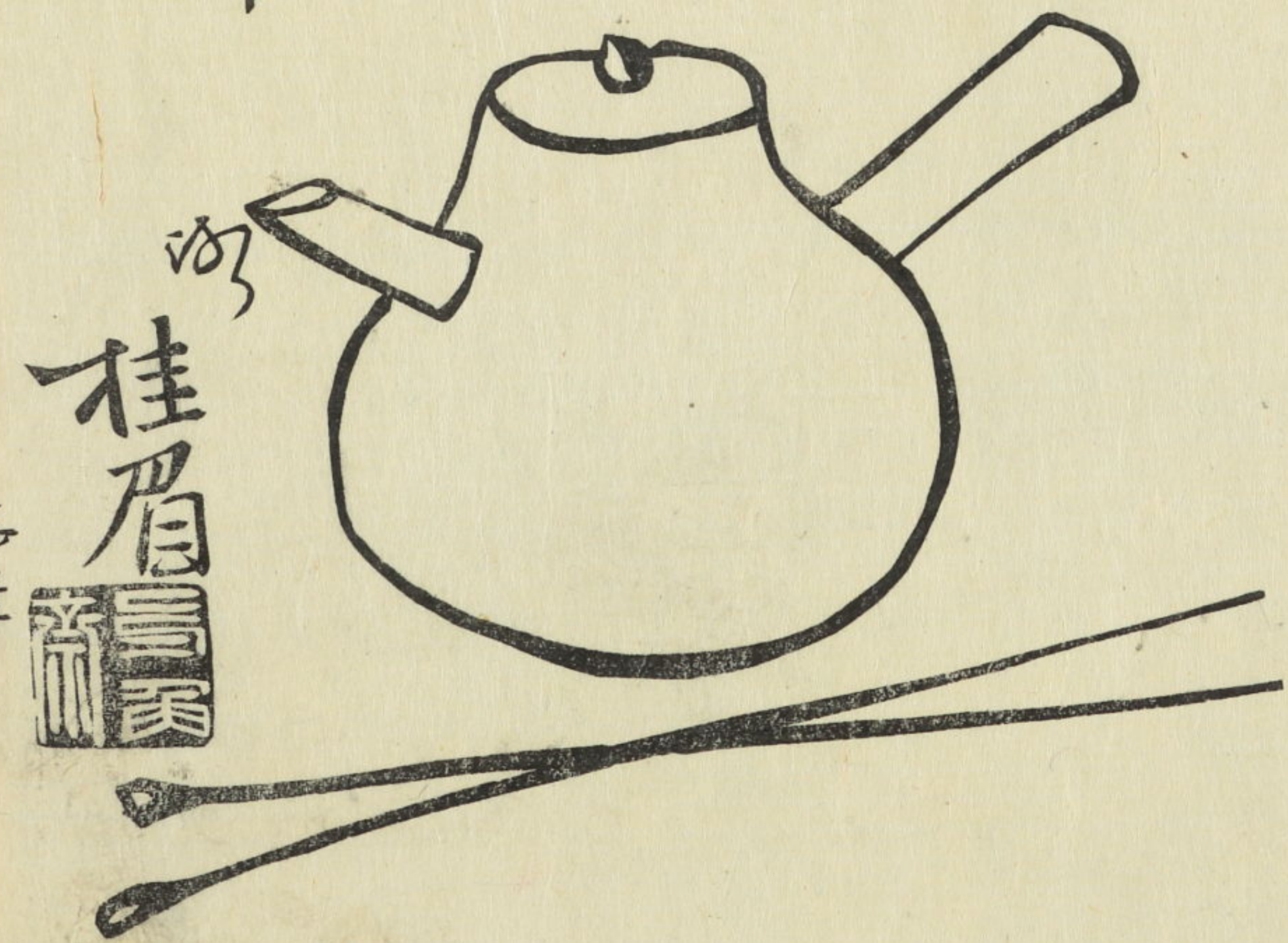


日 在 院 子  
子 為 ち ゝ め く  
汐 の さ ね

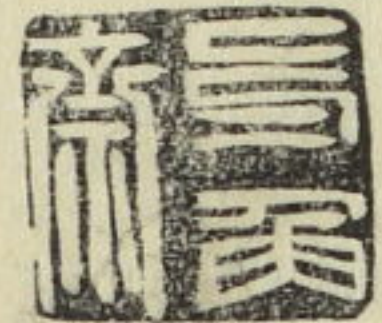
画也亭



丁も  
 おも  
 子  
 の  
 山



桂眉  
 湖



朝  
 顔  
 下  
 第

洛  
 野  
 卯



三ノ三ノ一

月夜花  
 二度す  
 起以隣

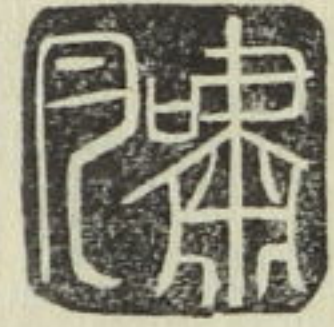
佳隆



三之三



筆の  
 流石  
 晴月  
 鳥暁



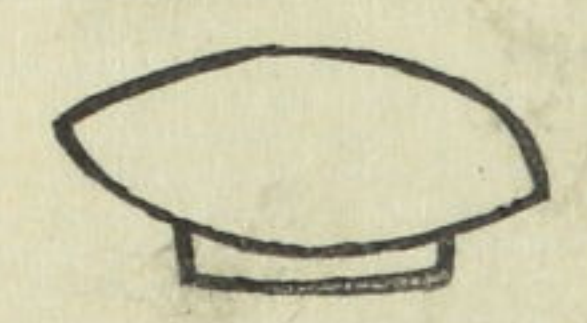
共進  


三之三

松乃あふ

たれち

冬鶴の舟



都筑



華の

大坂

義深



あは

あは

南



三十一

三十一

人さき

なみ

の葉

なる

芳愛



秋の蝶

蝶乃雨  
物音と

ちり

いそ

あめ  
梅の  
向



秋の夜更

さう五子

あま

西の山

十二  
ふ深



淋しき哉

聞の如れ

出の如

今日八月



子新



三十九

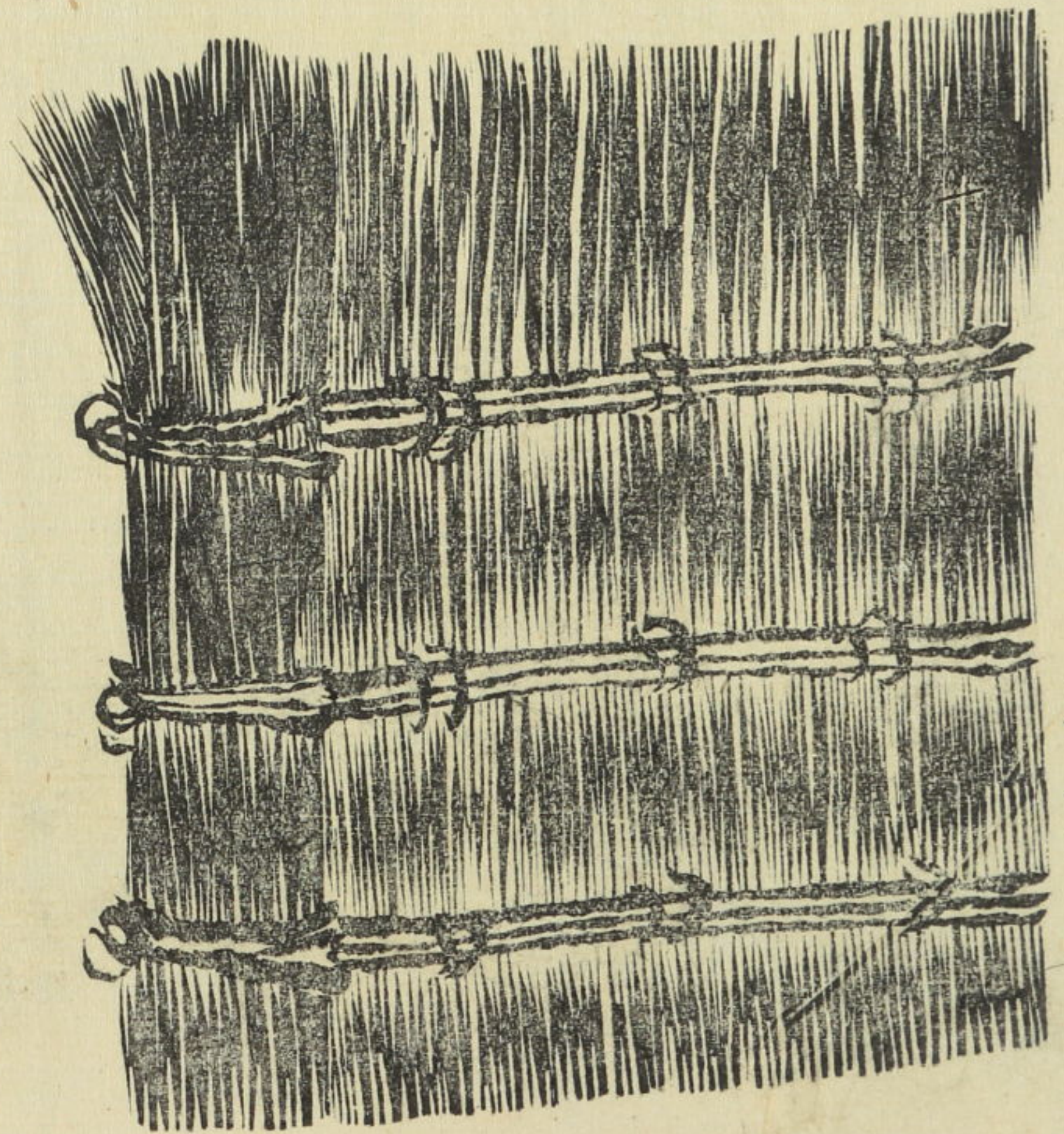
白紙の紙

花

多き

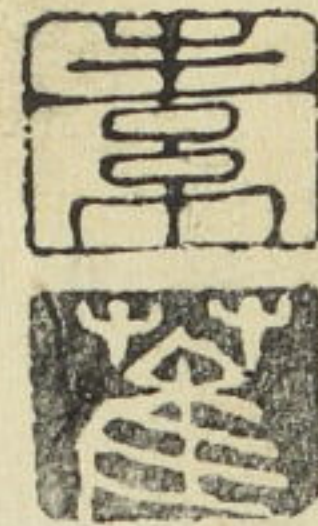
うと

紙の巻



三十九

素雀

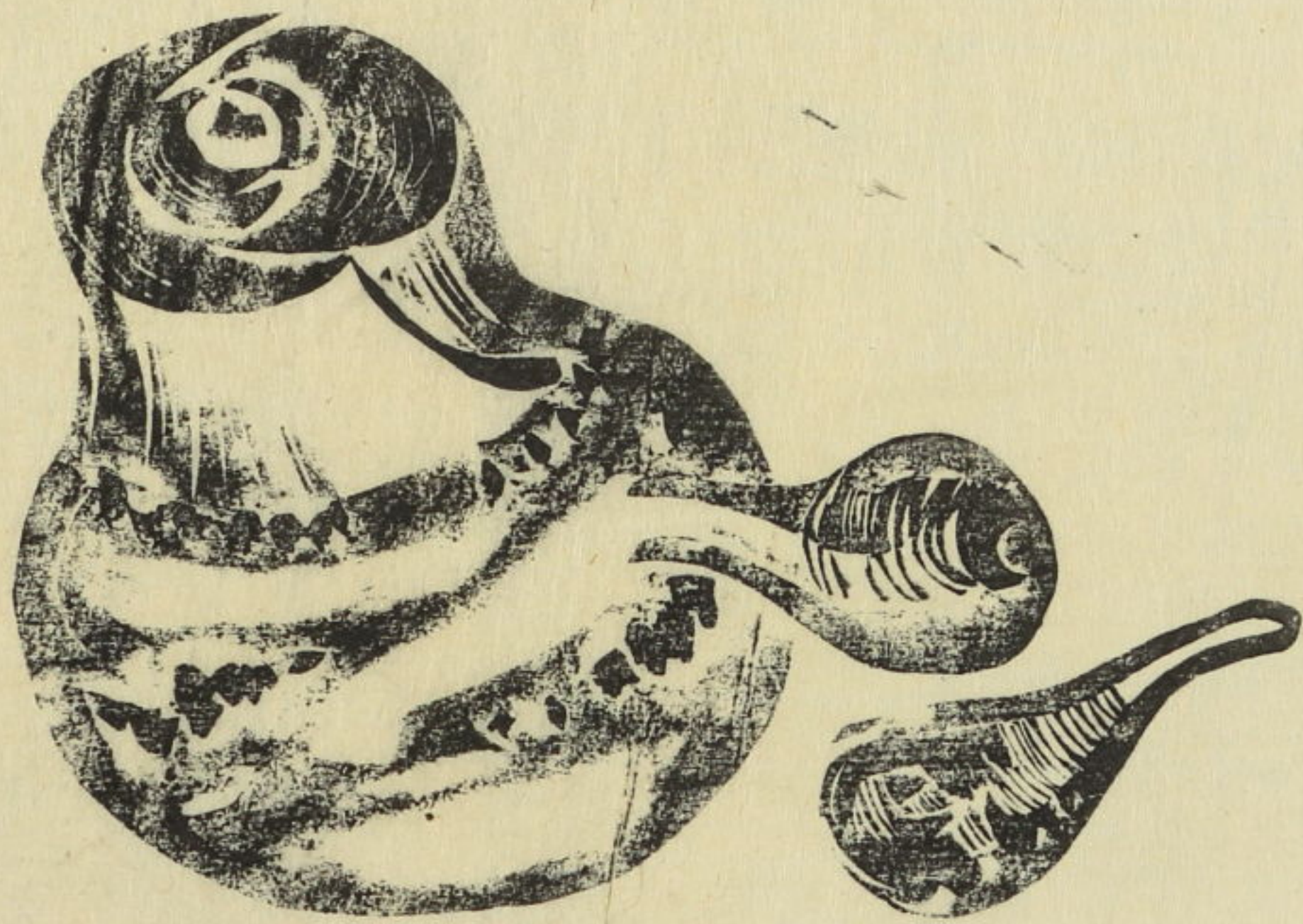


物をとぬ

うけし

浮き

花



東関



三十九





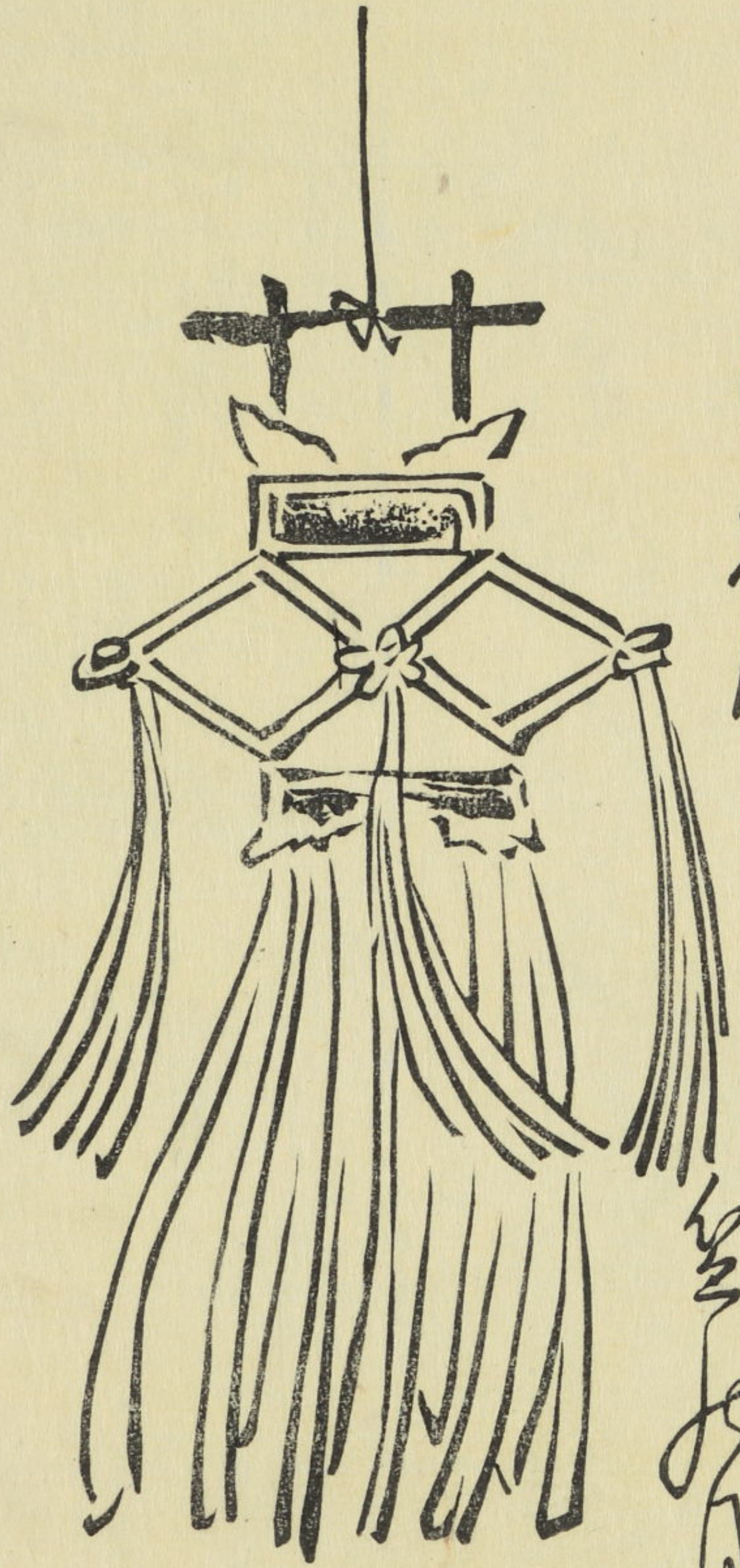
如  
此  
舟  
也

昔  
年  
在  
此  
舟  
中

初  
見  
之

洛  
神  
賦  
中  
有  
云





白  
 子  
 看  
 舟  


舟  
 看  
 舟

舟  
 看  
 舟

舟  
 看  
 舟

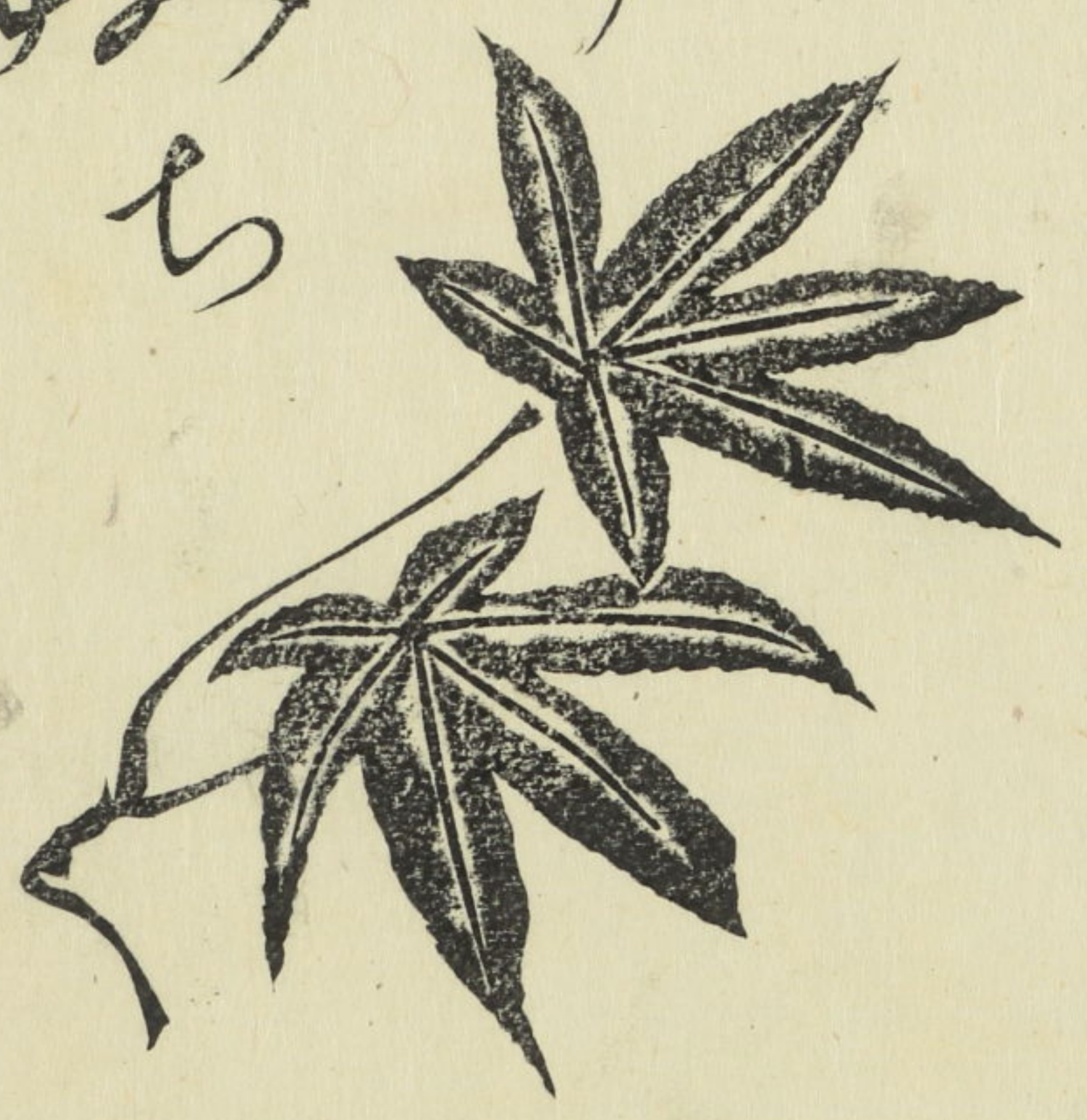
舟  
 看  
 舟

舟  
 看  
 舟

舟  
 看  
 舟

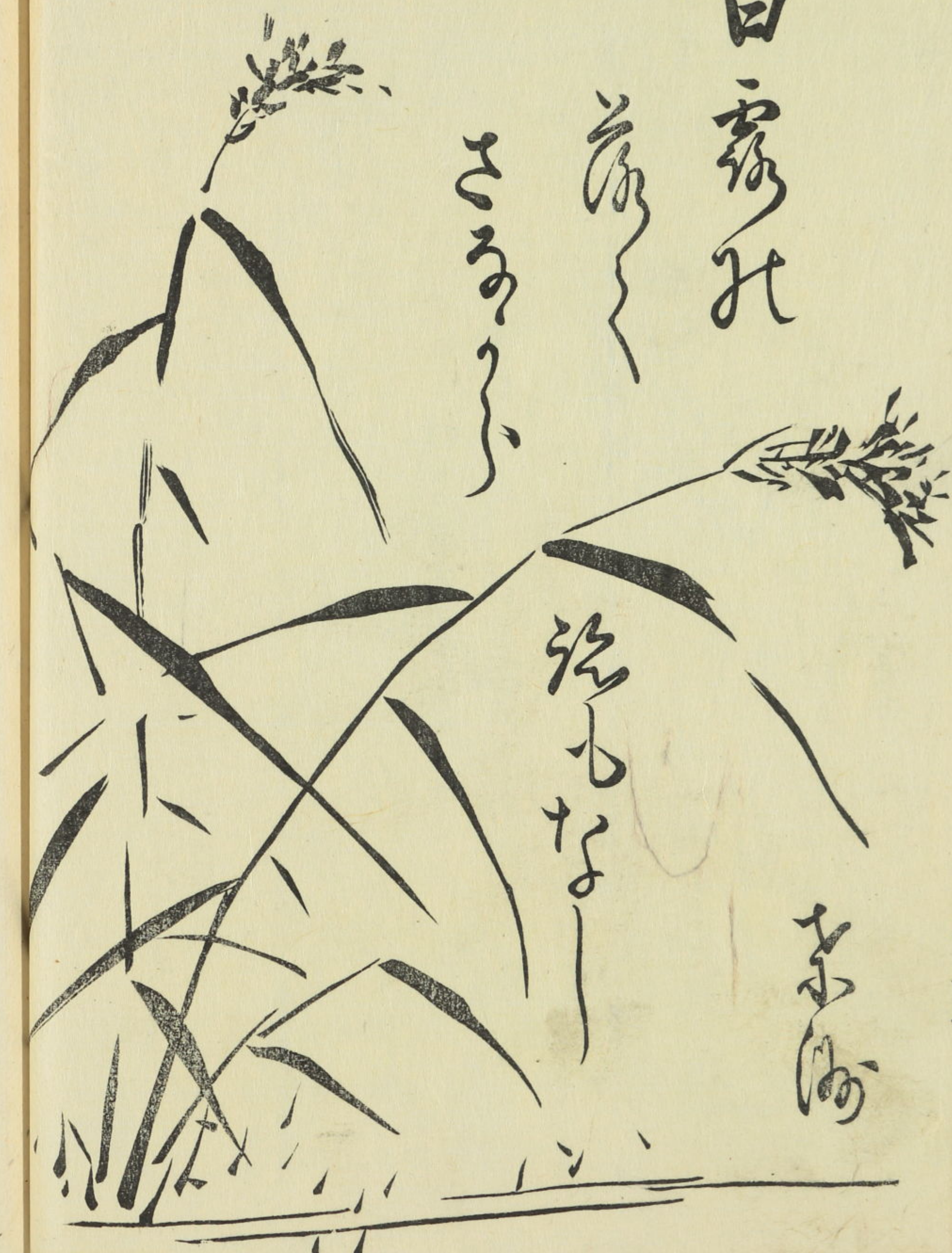


くらあゐ  
山  
なる  
ちる  
りみち  
徳花  
十市



白露花

さあ  
さあ



強心な

茶海



花鳥

花鳥の心

花鳥の心

月の心

花鳥の心

花鳥の心

花鳥の心

花鳥の心

花鳥の心



青湖心

花鳥の心

船、さか

さか

さか

さか

さか



船、さか  
さか

さか

さか

さか

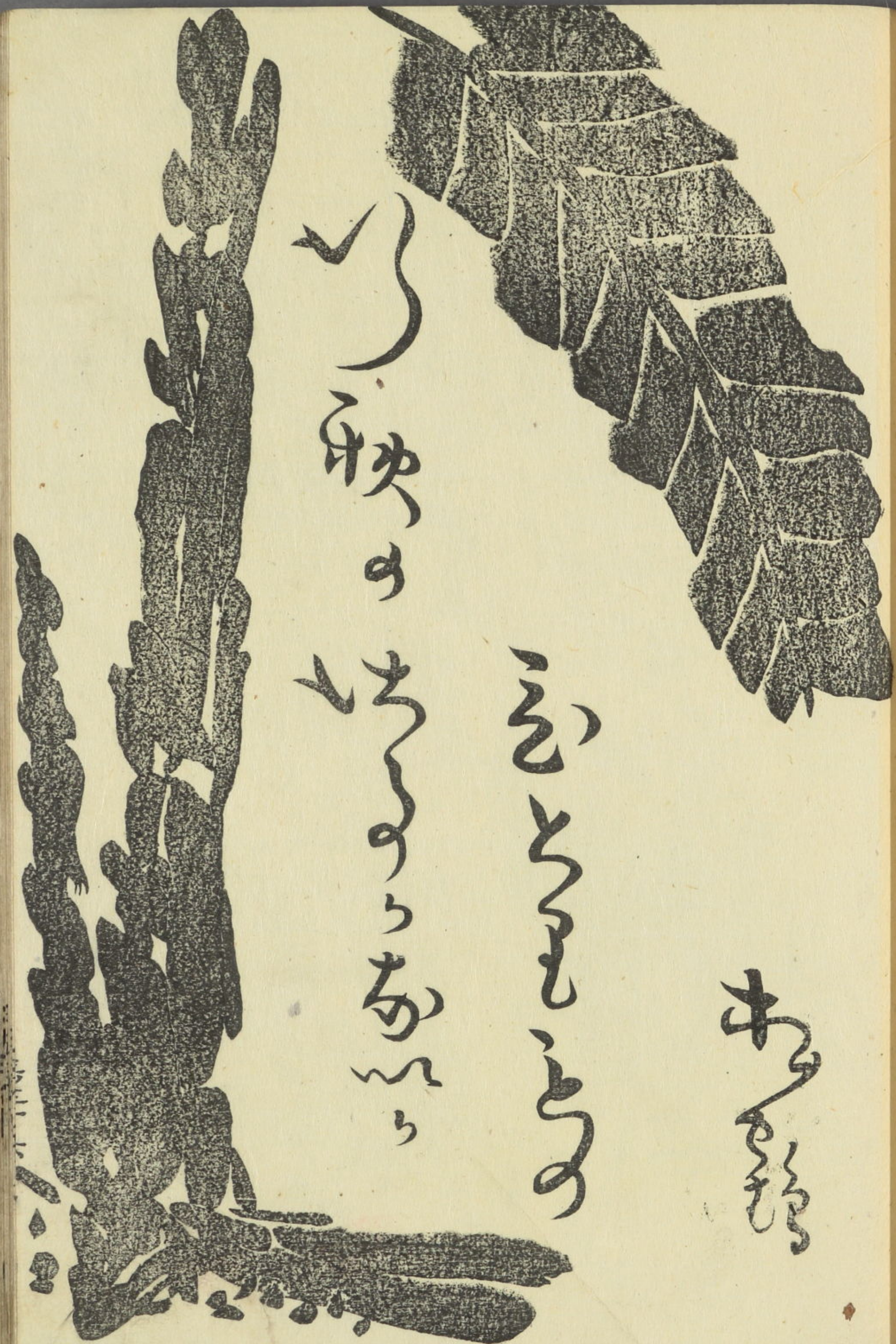
さか

さか



さか

さか



し  
映  
の  
し  
ち  
の  
う  
あ  
い  
り  
ま  
と  
さ  
さ  
の

あ  
ら  
び  
の  
し  
り

あ  
あ  
あ  
あ  
あ

あ  
ら  
び  
の  
し  
り  
あ  
ら  
び  
の  
し  
り  
あ  
ら  
び  
の  
し  
り

松園  
關

三



狛ハ  
秋を  
神

東と菴

狛采

秋の  
蚊

とくも  
やせ

あちの



み

三十一

神ちりや

秋よ

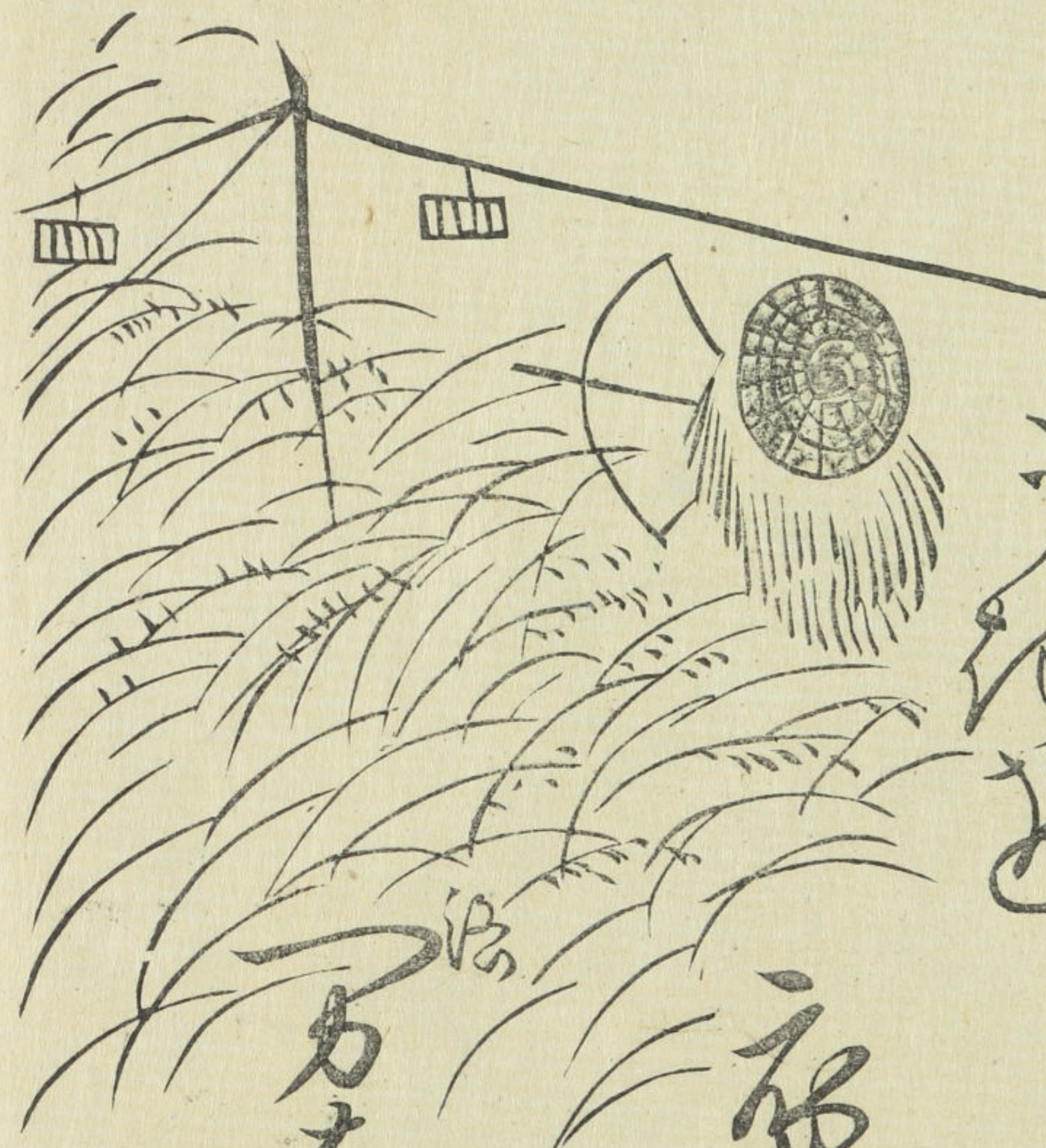
あの中

も



あふあふ

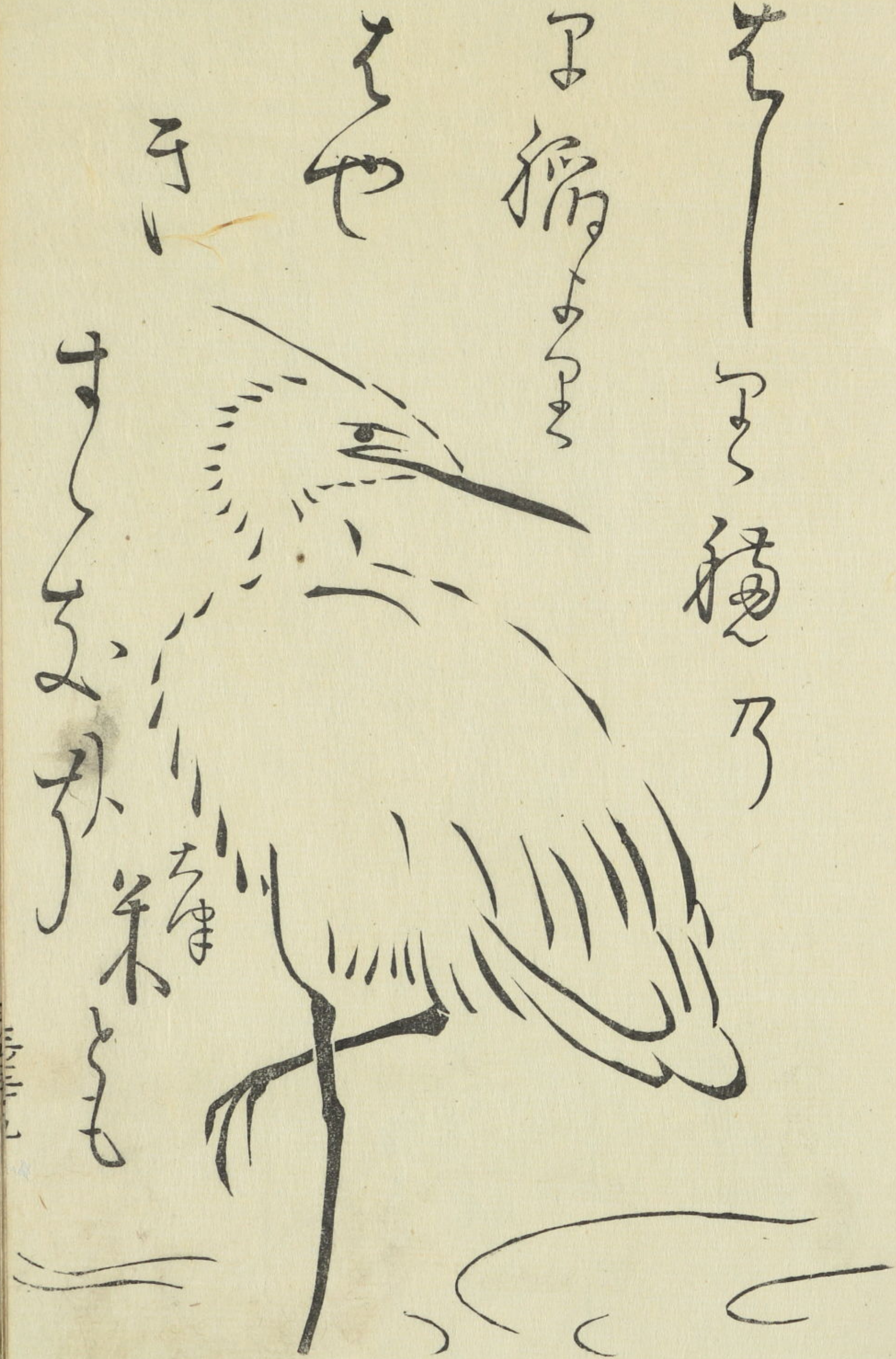
あふあふ



あふあふ

あふあふ



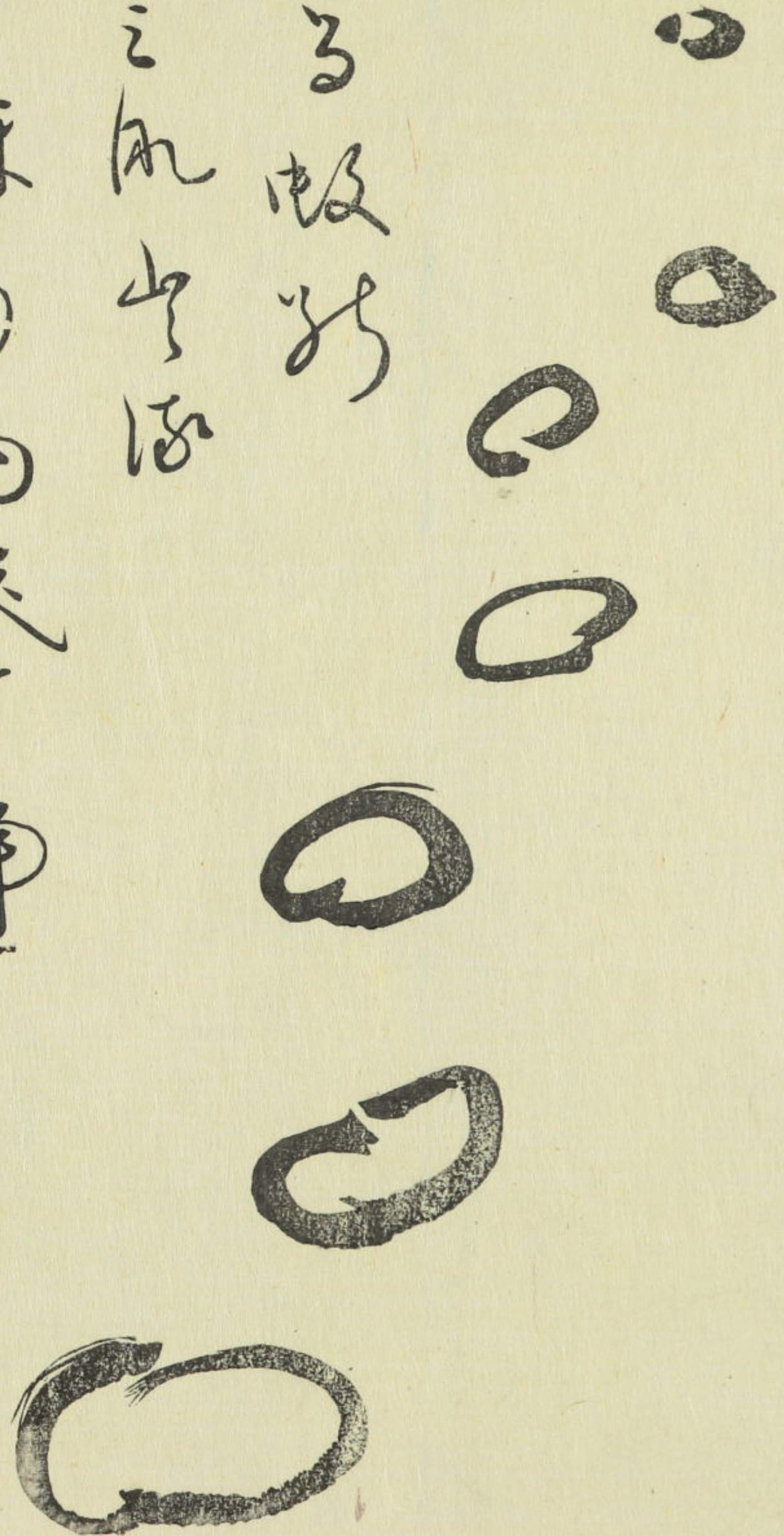


殘子蚊如

之風中

練乃西夜下

岷莫





香け香

朝起と

おろけ

かき

福妻也  
虎終  
所すろ  
牛の年



莫里

三十三



筆原

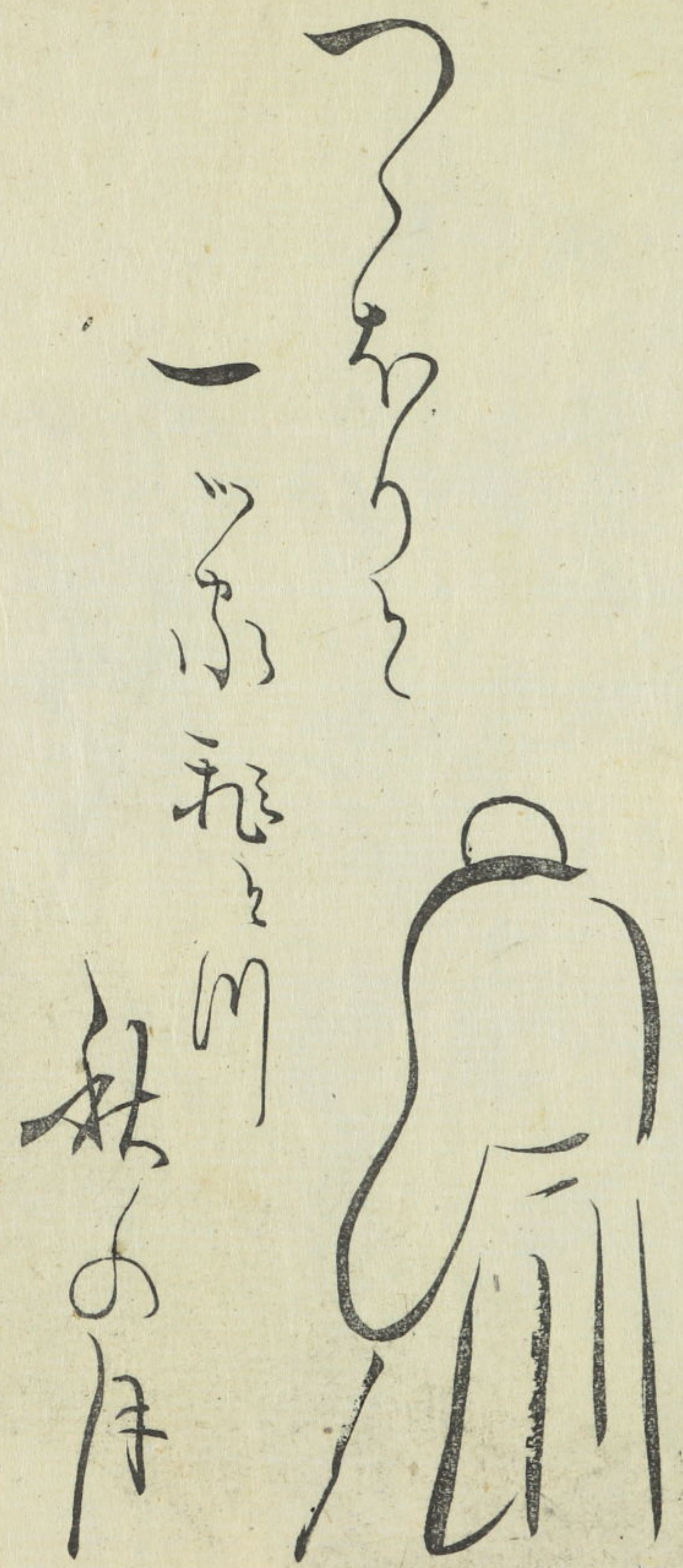
つら

月

菊

原

菊



九豆

つ

一

秋の月

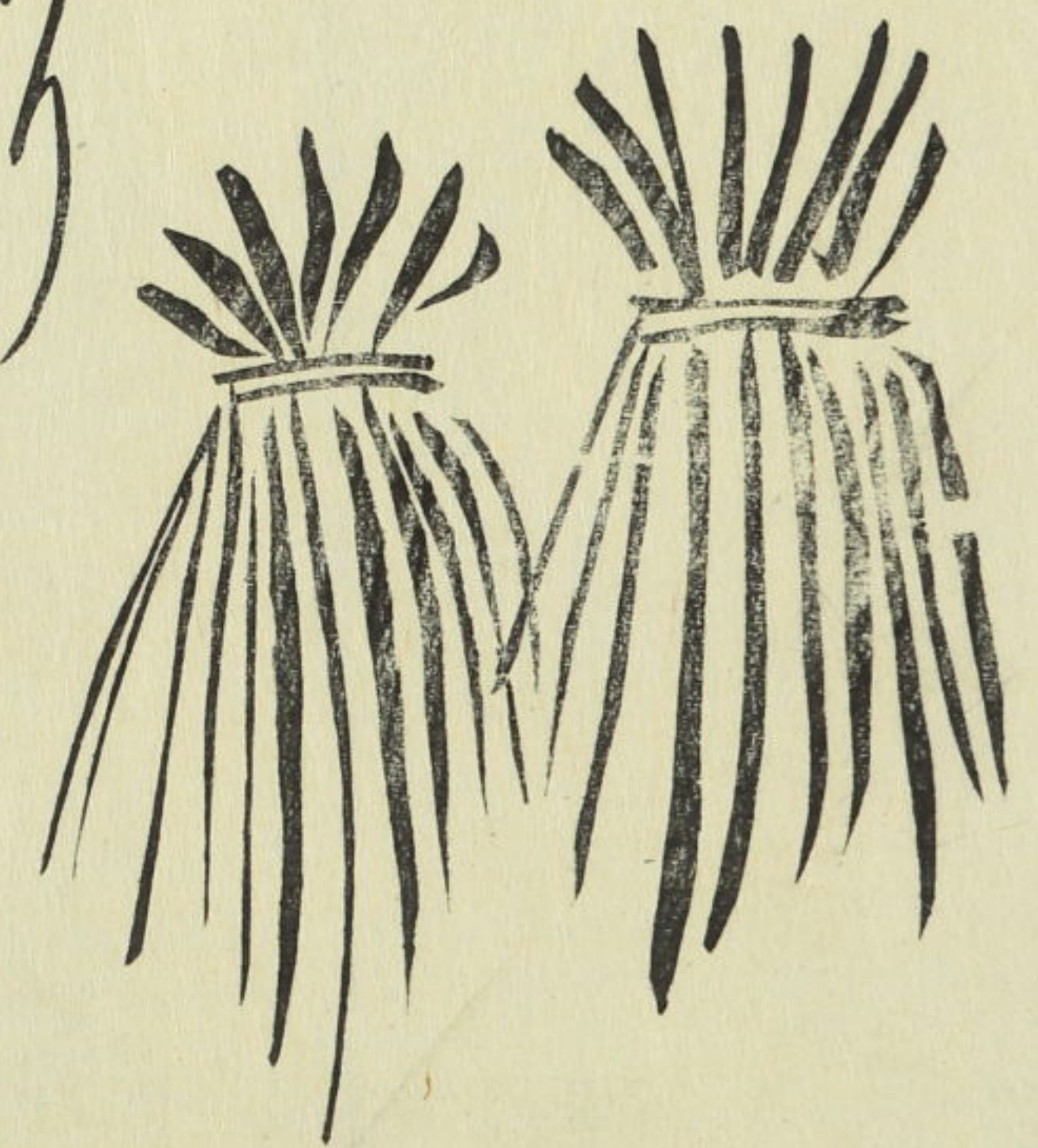
三

山里ハ

登り可なり

大豆の葉

五丁



本草綱目

豆の葉

豆の葉

豆の葉

本草綱目



本草綱目



竹  
子  
也

字  
也

也

大  
乃  
親

昇  
大



秋  
深

あ  
た  
し

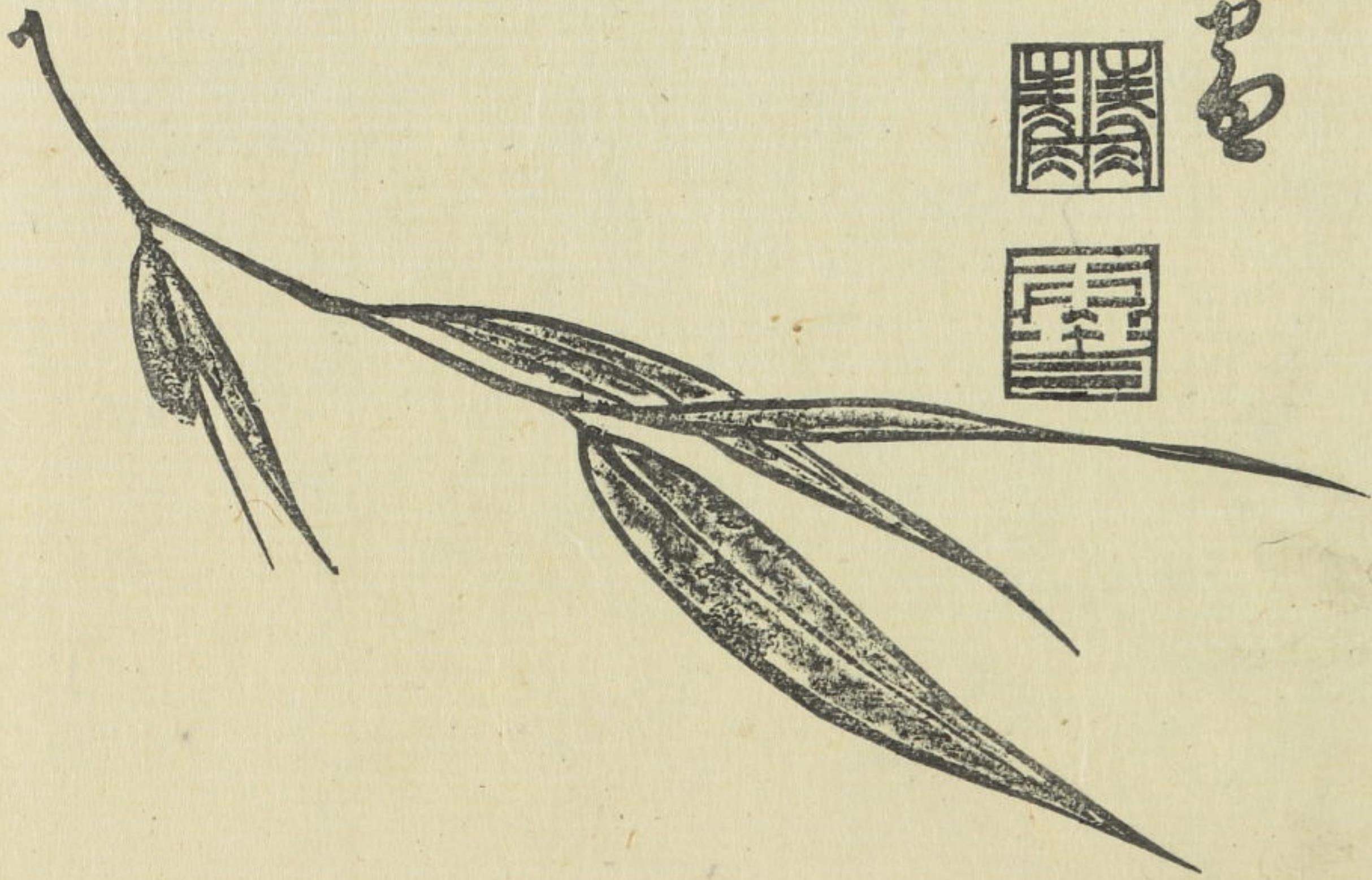
都  
あ  
ま

鴻

田

川

治  
死  
書



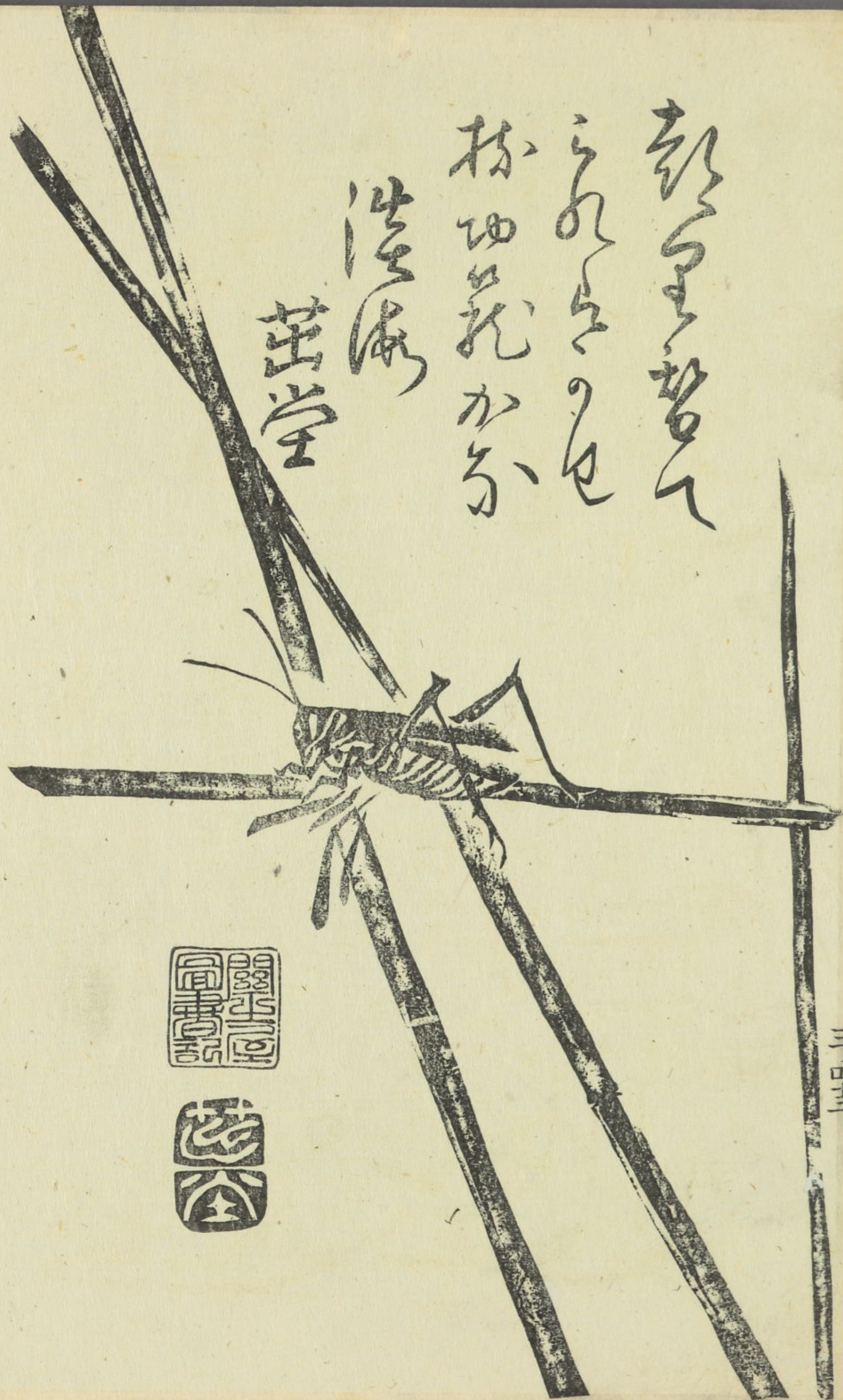
河子  
月  
川  
あ



由

草  
譜

三四



部  
之  
花  
流  
堂

同書

全

三四

おまの  
人  
欠  
ぬ  
み  
へ  
さ  
ま



湖東狭田



あ  
ま  
の  
ま  
ま  
の  
ま  
ま

あ  
ま  
の  
ま  
ま

秋橋



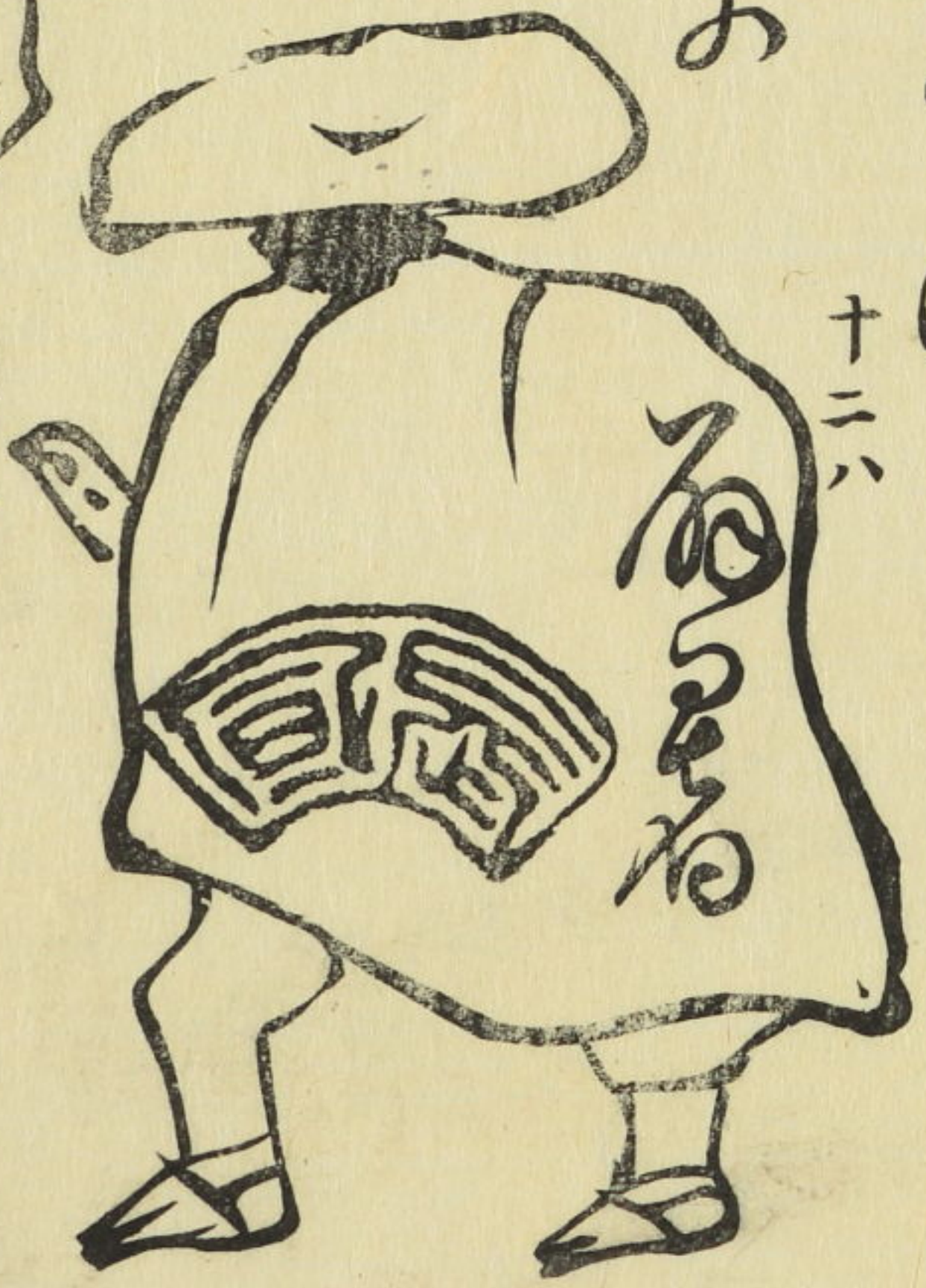
三四四

世に名を馳せし  
ては

ふたふた

のり

のり



十三

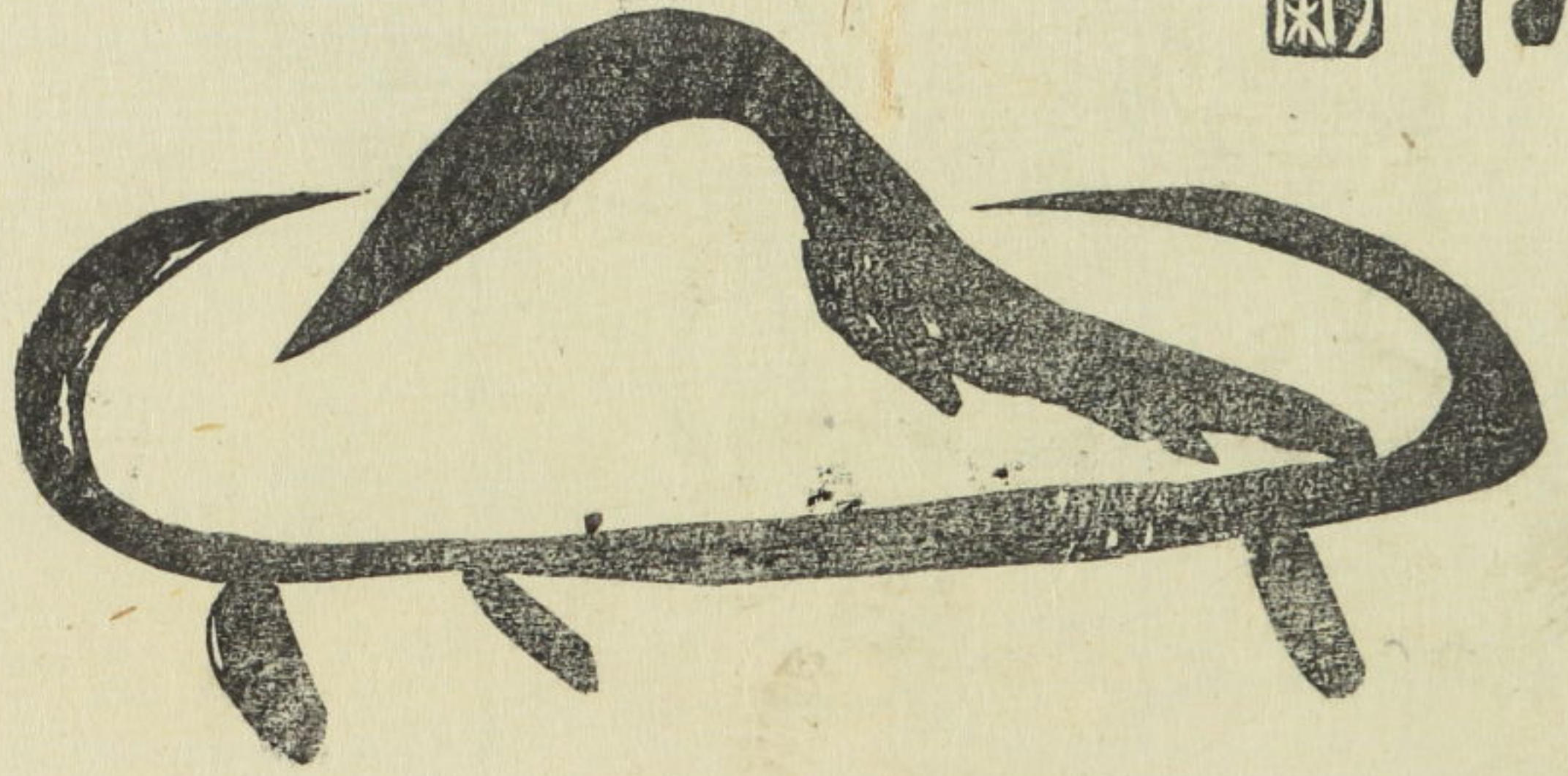
世に名を馳せし

三  
のり

世に名を馳せし

のり

のり



世に名を馳せし

世に名を馳せし





秋の空

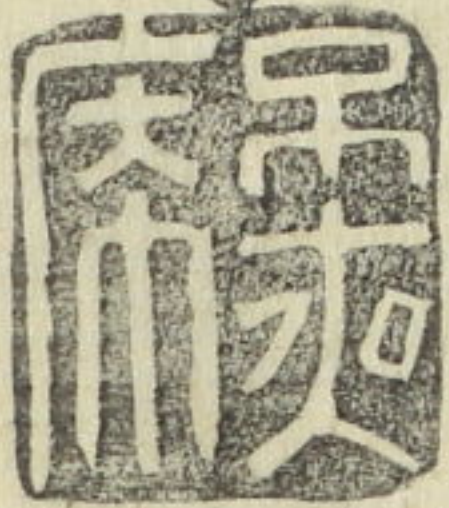
見ゆれば

秋の空

たづねて

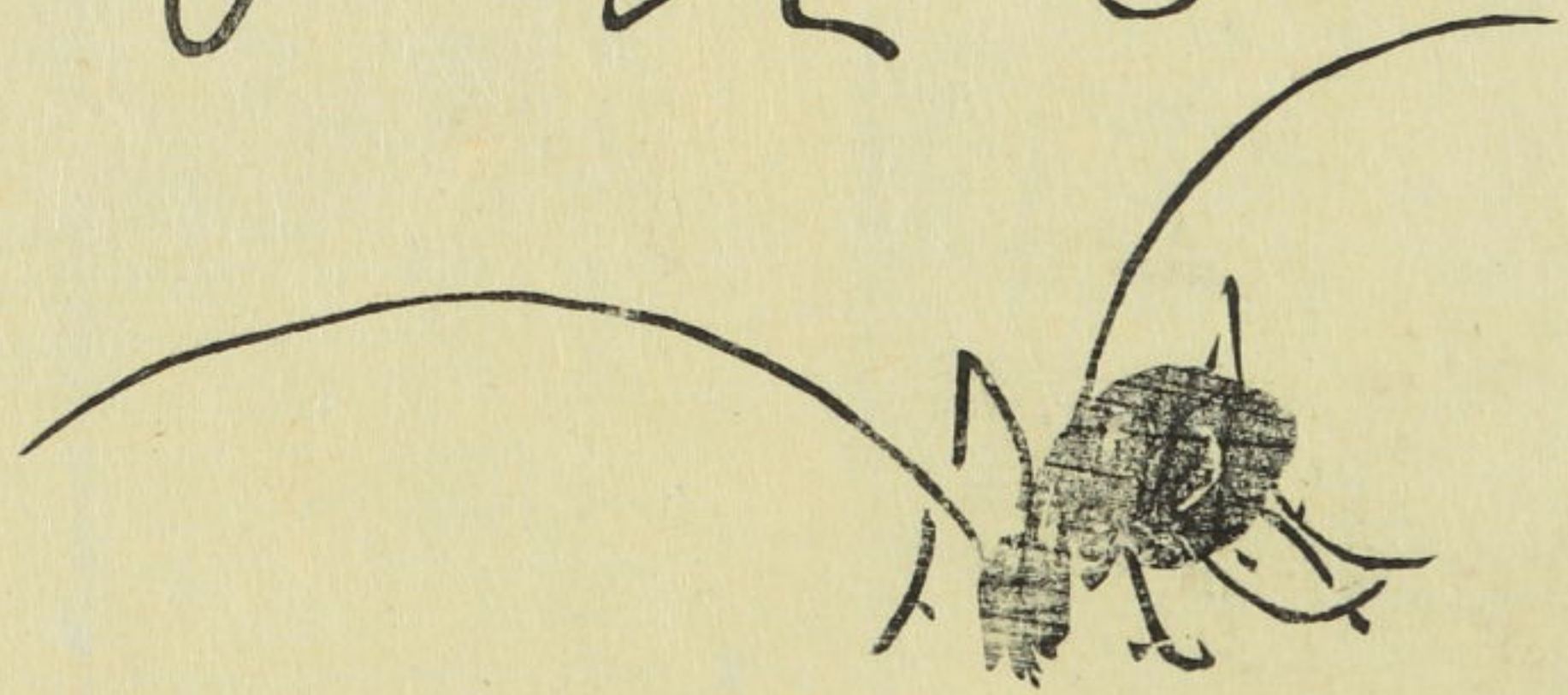
くち

落  
葉  
身



白  
鳥  
を  
軽  
舟  
で  
掛  
る  
ま  
る  
い  
ん

八景の



伏見のやう

いふや山家の

とよむ時

洛

る美 踏



山井の  
身之穴

お尾



お別系

坊、書



五八四七



妹にこれ  
以て  
式  
大  
え  
の

女  
い  
の  
印

三  
五  
八

花の  
麻  
な  
く  
て  
も  
な  
ら  
ぬ  
ま  
は  
ら  
ぬ



活  
な  
ら  
ぬ



三  
五  
八

松  
心  
う

あまの  
夜  
若  
丈



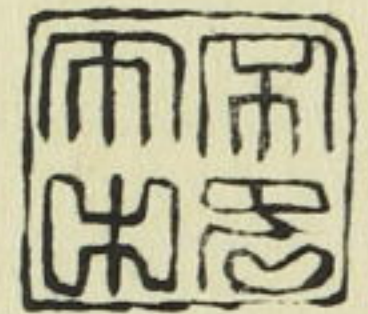
女の  
さ  
き



唐人

三四九

布水



夕まみち

あしり

しん

あま

る



三五十

有乃

夢

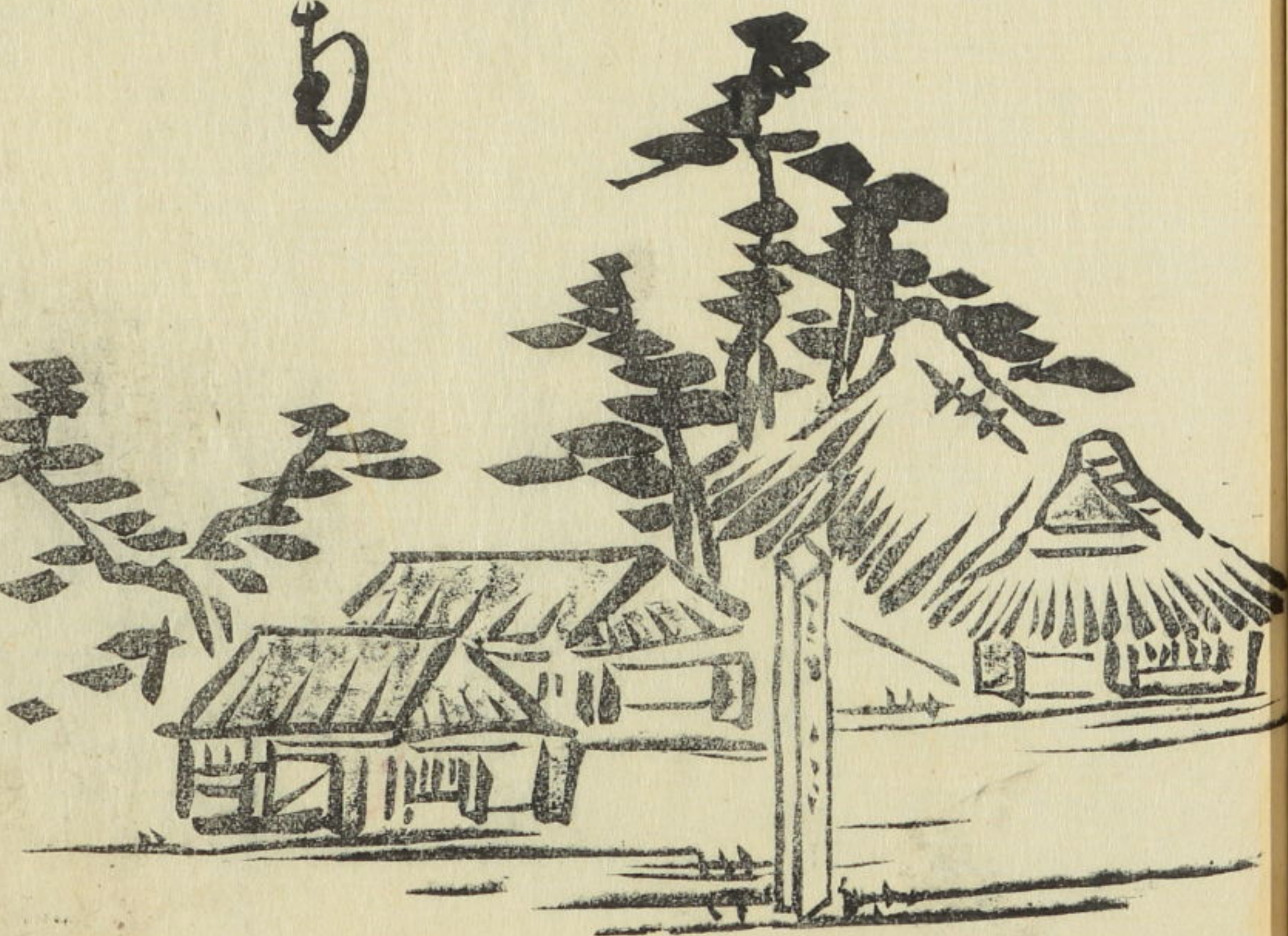
あしり

石

京

縁階

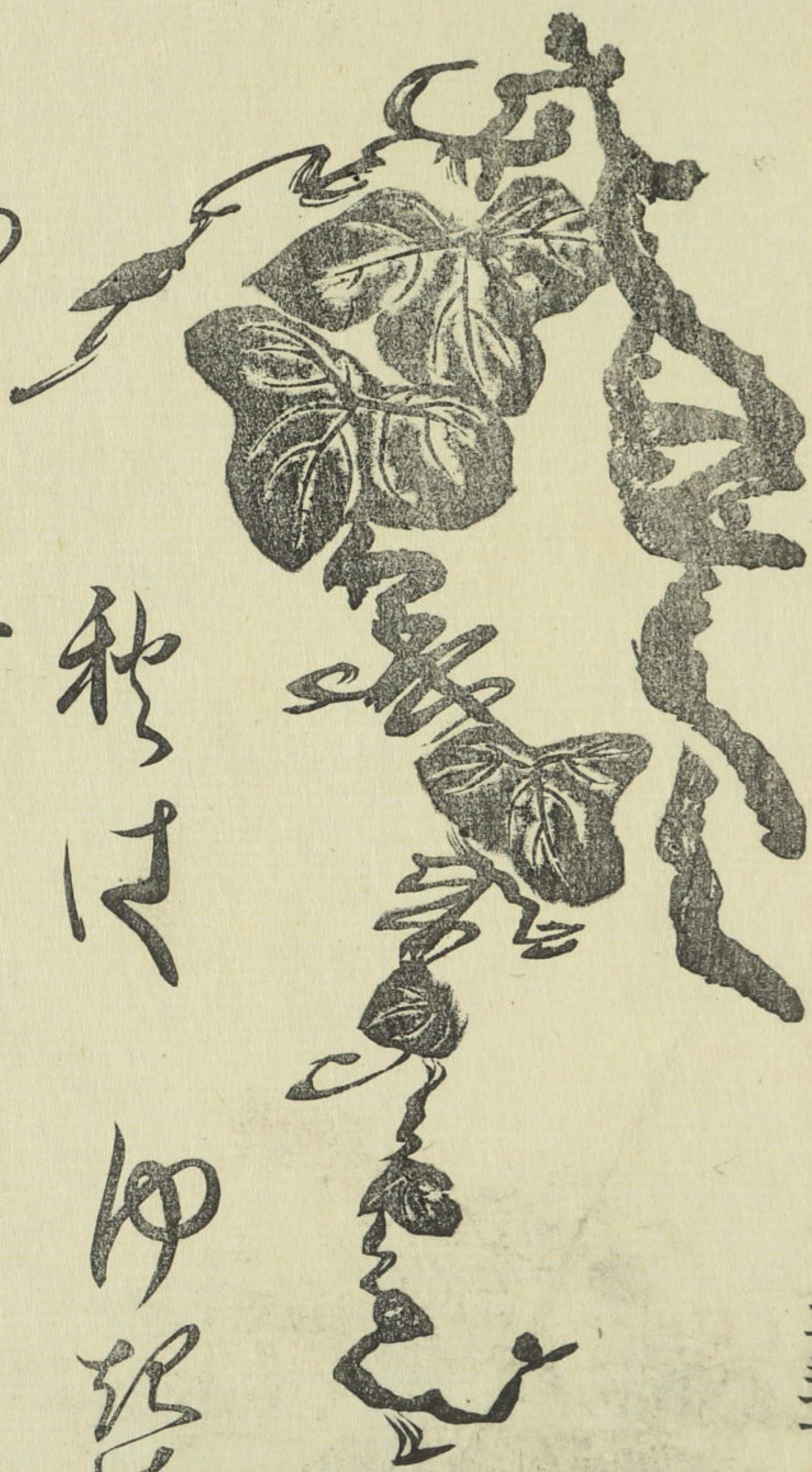
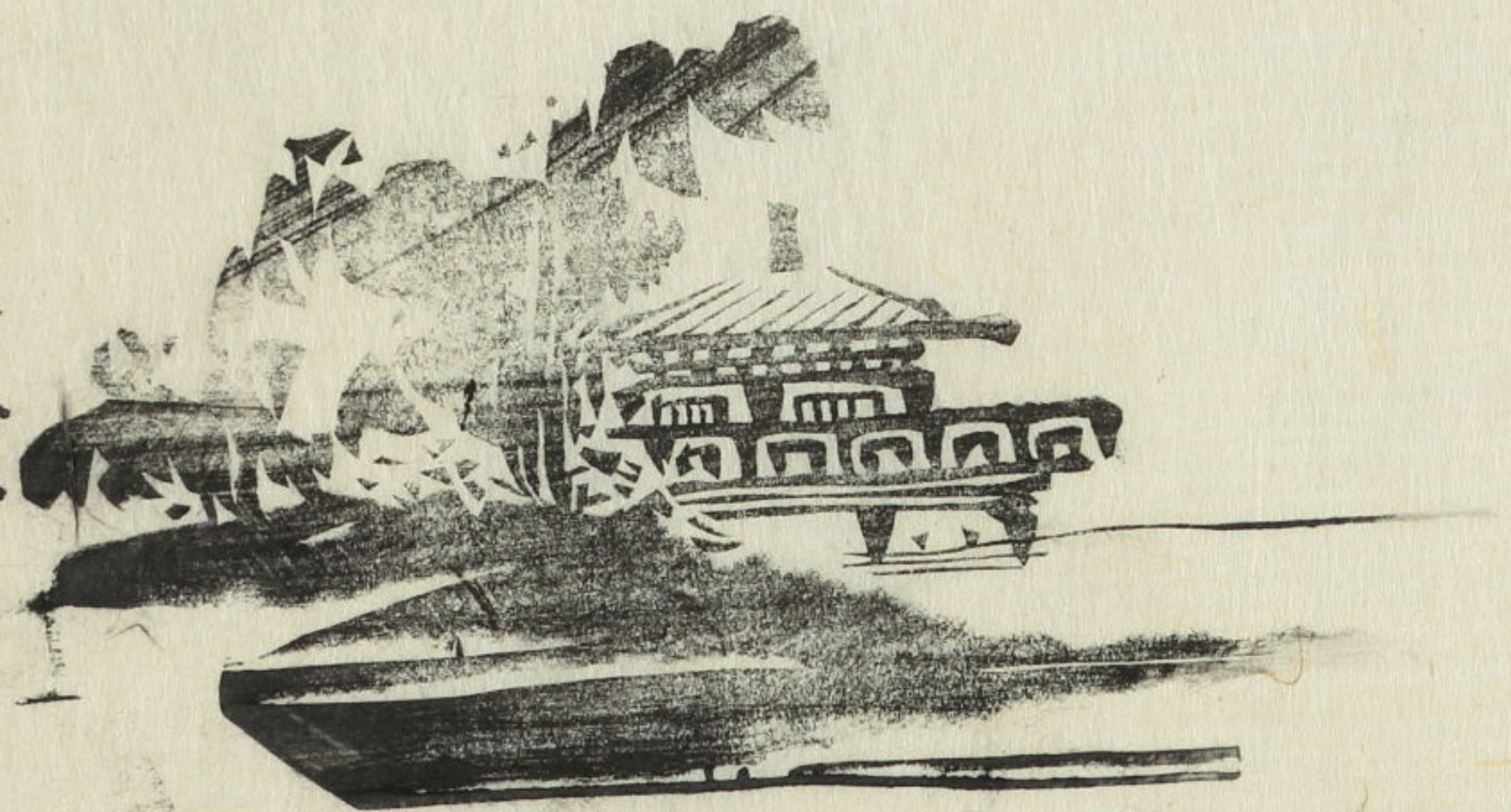
梅



三五十

由布白氣通  
 奈珂遠紗玖  
 禮波嗟峨乃  
 迦泥

其川圖



沸

秋は

伊勢橋

知れぬ

安事のみ

大坂

升六



大さ乃

おもと

おとぎ

ま

う川石

おとぎ



鳥の如く岩根松の根月三夜  
から起る露の波あゆむ  
古海しと屋母地を吹く  
やほきあけし竹の刻中  
る梅の咲は露をさそふ  
齡母の尻に巻れ子も

逸人 竹有 不為 嵐蕉 嵯麻 也實





夏草花の肉に熟するあぢきなき  
 五七の鳥のうせよ坊らき  
 瑞冬よのすこく船よの舟  
 朝やおくれめをふこつふ連  
 虚を傍のりやく月をゆき  
 出雲の白蛇おまを秋  
 耳すまのく記神の芳の奉  
 君を思ふ千里二千の里  
 逸人

眞更に夜の有秋を画に書え  
 さもしうのくし下く行はひあま  
 花の山を乃何じを吹くし  
 其のぬらみおいらき流る  
 焉穢洗ふた司うのせむら  
 四時うやくし空をすく君  
 花園  
 花令  
 嵯麻  
 情臺  
 木天  
 少洲  
 竹有  
 逸人  
 亦天

梅樹逸人



三笠山祇宜の軒也

東の月

夕月也傾城もも

朝多水

葦や寮の茶を煮る

老材ま

蚯蚓啼や庵の茶釜

松のてみ

六月月

先づ喰か

隙も  
隙端居哉



款すまき又見る閑の

花火哉

愛舟さ八景山子の予乃

矢先が

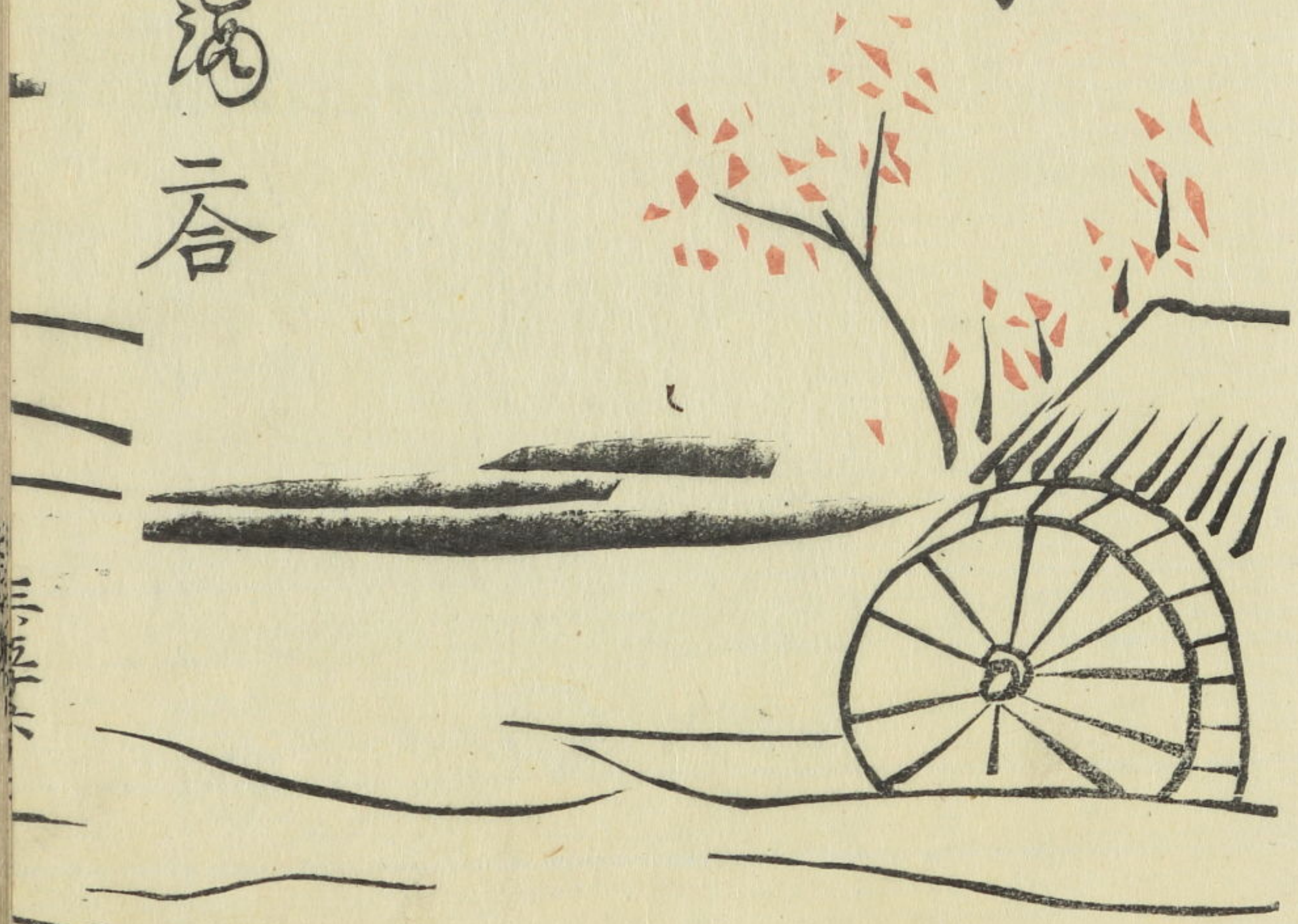
寝て轉夢をいよも也

きり〜ん

月う出て戦ゆみの

萩芒

そけ〜も燭酒二谷  
生り魂



色り替は賢もあはし  
くみの月

田くの急思ふ

月見の南

鮑取て浮キ出る顔平

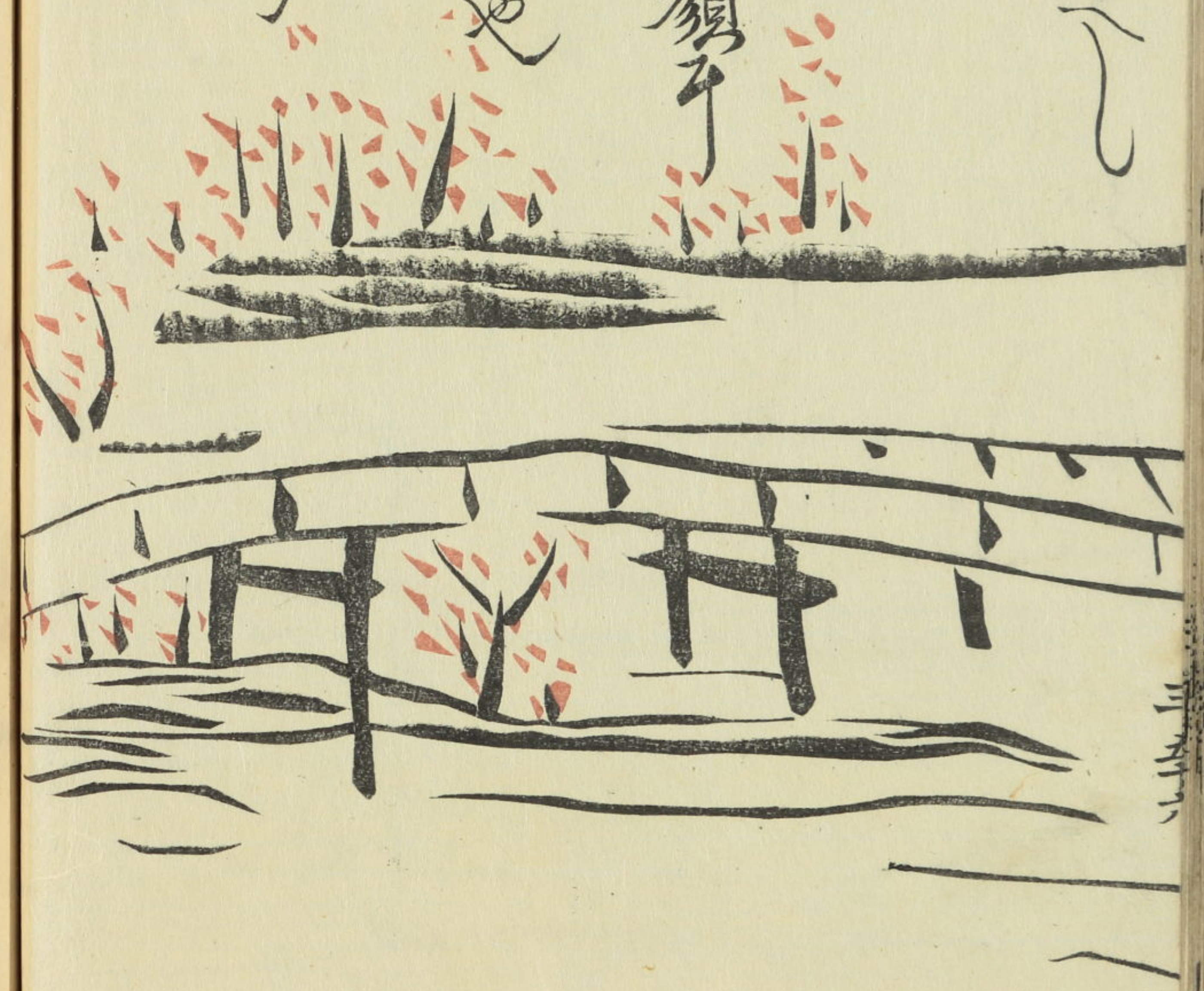
芒加南

芒澤の要をも命也

州の奄

月の為鹿中為る

飯家哉



虫の啼秋こそ来れ

東の雨

鹿中も酔ハ祢ハあまに

嵯峨の月

幸ハ美濃路じり

不破の月

月にかゝる雨あれハこえ

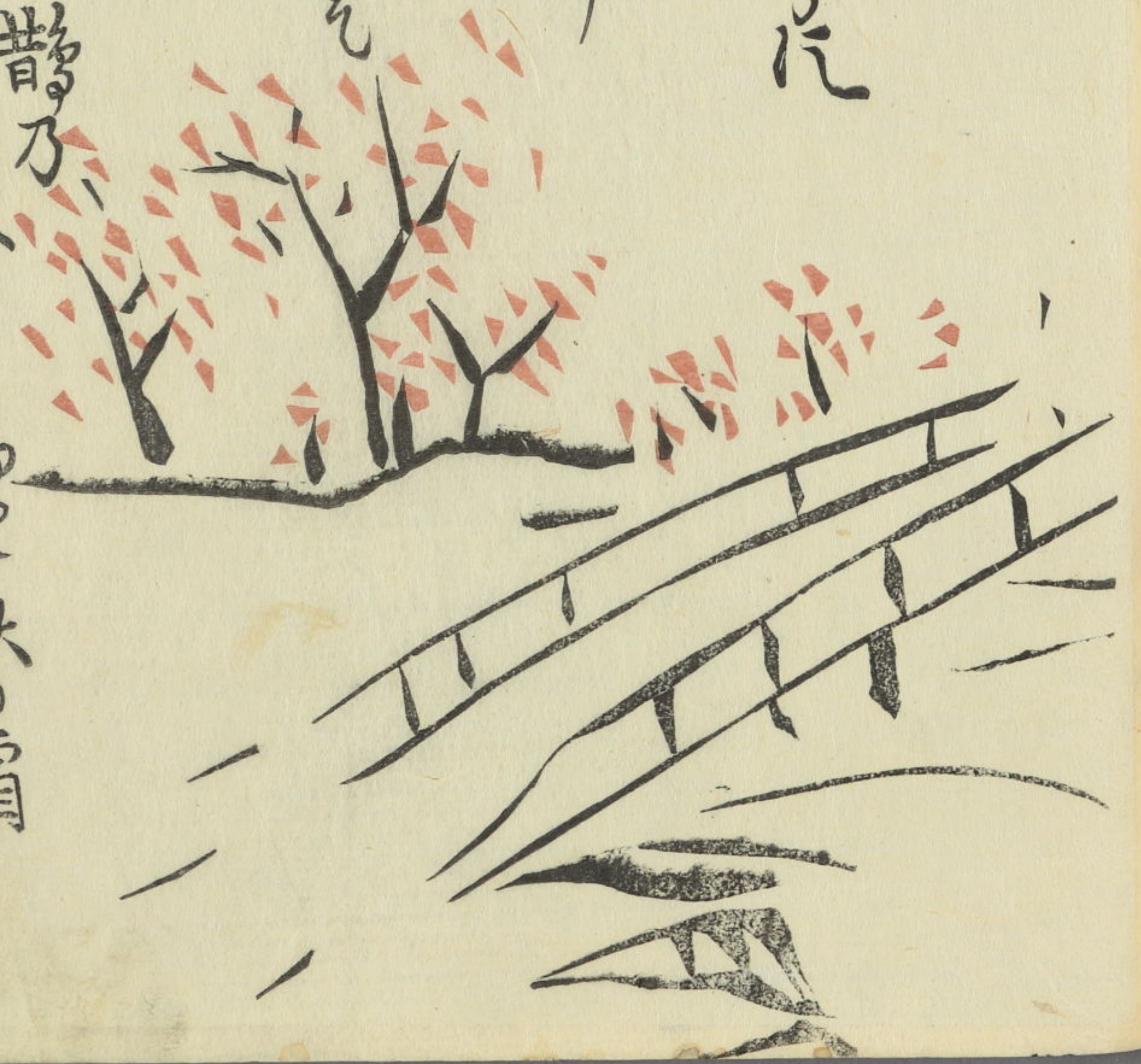
月も思連

腸りささか通れハ

鹿の啼

静乃

渡せる橋也秋の霜





漁人



此君に  
殊に渡巻  
多の聲



三五

風の累り  
くらし  
吹 一古

山の尾小  
竹白馬竹書ふ  
而后

一里ハけむる小埋む  
玉丸  
眠

三五

秋をよみはくして

元  
余穉

子鳥を夕夜に

夜をよみはくして

杜曉

あまのこころをよみはくして

雪をよみはくして

鳴也了息

霰をよみはくして 霰龍

高遠の海に物立をよみはくして

雪元

西の山をよみはくして

雪元

風流

あまのこころをよみはくして 申也了

あまのこころをよみはくして

三ノ巻

鴨川水

鴨川水

鴨川

かき

あ

セツクハラ

あ

むふう

む

初

あ

あ

枯

あ

あ

あ

月

あ

あ

大根と

ぬきまき

きりぎりす

松と

ひまわりと

桔柳

ゆきあはれ

水多の洞

ほろ

あまのこ 稗話 之 煉拂 芋丈

戸口 かく 落葉 白岩

ふま 了 山家 句

多摩山小

雲之吟

小舟

ちりり

之松

蝶々如也新

はつちや新

新

十斗升也  
多  
銅の雷

撰震

格  
鳴

定  
此  
地  
の  
月

已伯

音  
及  
各  
音  
も  
奇  
く

千々

奇阿

と  
乾  
の  
落  
葉  
を  
か

み口

藤白

乞  
憐  
の  
苦  
り  
悲  
し  
む  
る  
を  
み  
し  
る

の  
鳥  
れ  
を  
て  
ま  
の  
り  
深  
の  
町

ヒヨ子

素系律



かゝる事眼

かゝる事眼

かゝる事眼

比處なり

あゝ

附亭

杉かきよほきて

あゝ

批把の花 土五直

土山

波ひふあやほなみ

梅亭

波ひふあやほなみ

すゝ

風や物より

浪花

仙

神皇正統記通巻杯好々

湖東

つぎ

あひのしや

焼

あはれ

系

日かきし

其么

貪乃こころをたえそふゆの能

湖東

栲田

寒葉の傳(崩)風情哉

浪花

元岳

をらるる頃いふふ哉 楚雀

ちかき

大洋

宇洋

鳥乃浪のりり

友明子

宿り多し 秋の 後 秋の 後 秋の 後 秋の 後  
百田

クメ

昔 昔 昔 昔 昔 昔 昔 昔 昔 昔  
一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

いし 戸の 秋の 雪

以 風 吹 十 日 也

大津

くさくさ 人 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
醉 踏

柳の 火 止

加賀 本 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

焚く ち 下 へ 多

さ 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

十 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
静 中

さ 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
静 中

鯉 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一  
静 中

静 中

初をばきり居るチカ 蘇朗

ふのと

寒くはるし田沼

ホ 念をぬく馬

てのさかきくさくさくさくさくさくさく

和月

持たれは世とさくさくさくさく

竜刺

らーらさ

一宮のしむのむそら

ちんすのシラ 柳

さくちんすの

さくさくさくさく あは 壱積

少之越る石の音さよ 女口 不休

子らうら 多と川

くそ 大坂 宝島所

女心 凡鳥

誰も女を養や高桑乃有と出い

多のよる人か 自昇 仙臺

志ひ 活字 本

子有 湖東 蓮車

包 蓮車

反りてを内

寒く見ゆる心

下総  
を印

移居上島養下

魯山

我獨り笑めり世野々水仙花

樽のわらき目へ平し未あれ  
石の粉うらむ 木窓

まよふ心も未すまふ今凡かき

知十

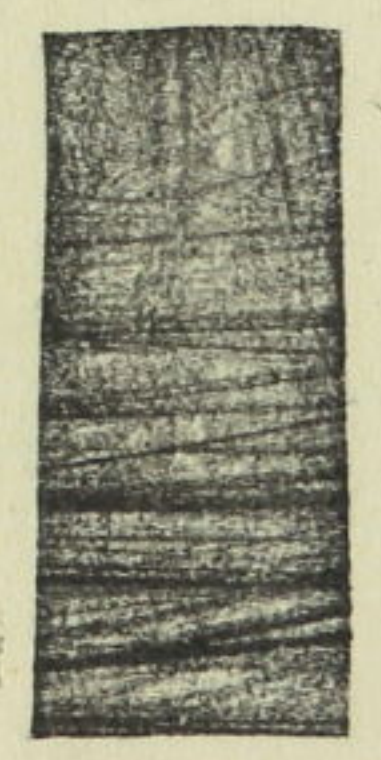
よもすからなくやちさりの

いづあら  
山鳥

初雪のあかきあよ

あま乃山

松くらくと井好舞、  
山家、  
れ



度々〜と

鶴の丁五

つる也枯野尻 隆志

一ノ鴨の声さ、

湖東日野

たうきこゝ 竹窓

紙ふ寄書

湖東  
赤糸

船の音 蠟燭の光さるるさるる

羊古志

あゝ〜のあつあつ

自らのわらうらなふらふ

檜川の村  
化右

押さへしやまのまの野の燈籠

月雪をぬきみ<sup>浪</sup>寸暇

主月し如仙花

鳥啼瀬田ハ古橋<sup>大洋</sup>

多々しら多々しら上

うとまの<sup>うとまの</sup>

うとまの

東雲

ゆきハ月本不<sup>ゆき</sup>

雪半片

川鳥はま川鳥

母日尔<sup>山</sup>

雪の日也都尔<sup>其流</sup>



物乃山々事人  
豊鶴

うけらしきん

風の枝  
鳥

鳥

鳥  
草鶴

鳥

撰子あり

大坂  
丹六

冬牡丹力工思ふ

胡蝶

冬  
年秋

冬  
子神

三十一

安んじと大招引

るハニニニ

大南

あつたつたつた

伊勢  
山古

何事かたつたつた

風流のしほはなはなはな

秋  
叩

能  
言

一平もはなはなはな

解走ハハハハ

川ハハハハ

高ハハハハ

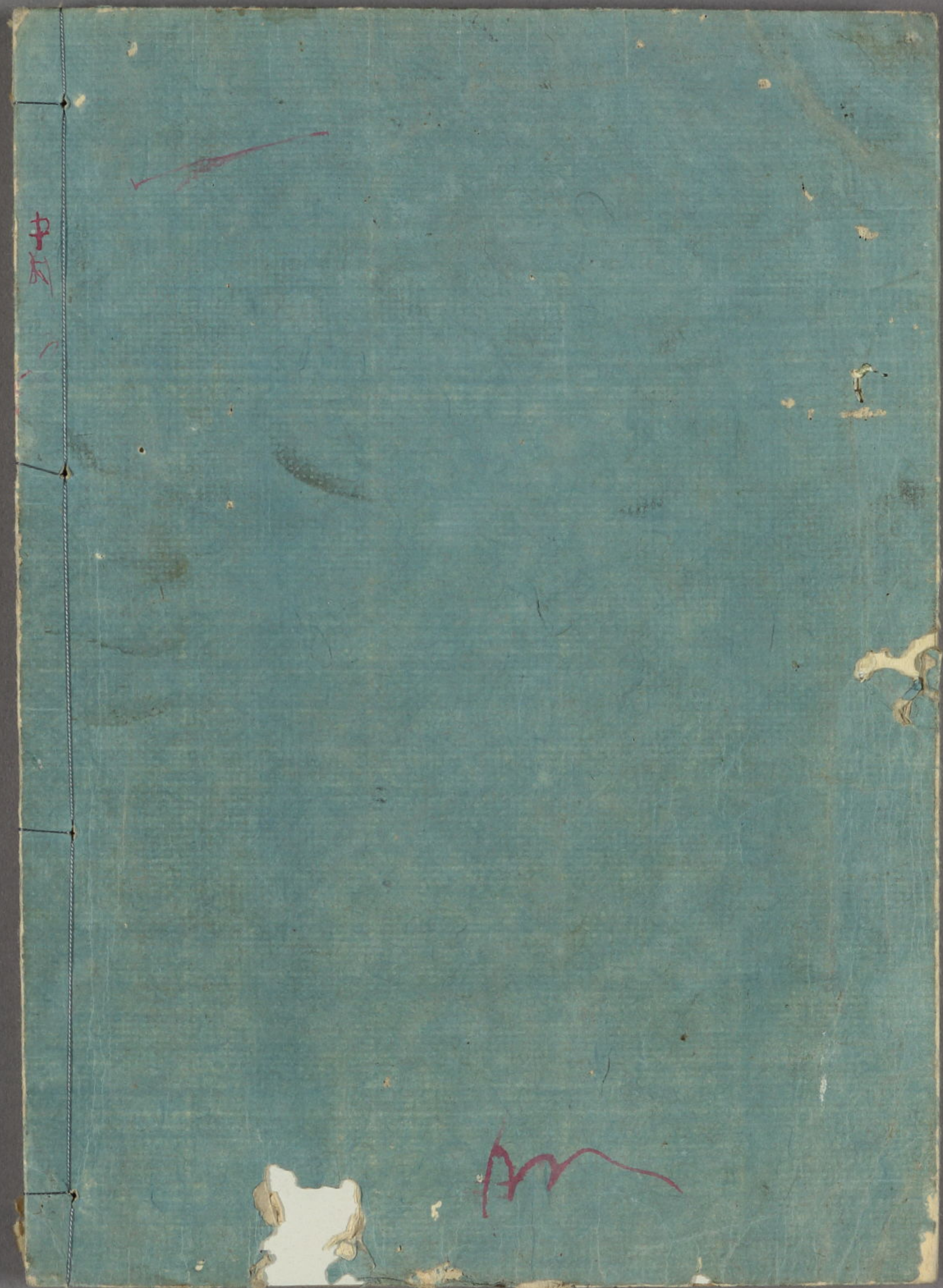
岩現く乃雲と

たつたつたつた

法  
管  
音

一平





中

Handwritten red mark, possibly a signature or seal.